平成３０年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 日野市社会福祉協議会

目　次

地域福祉活動推進事業拠点区分

地域福祉事業	障害者就労支援事業	・・・・・	１
	障害者団体及び高齢者団体バス借上げ補助事業	・・・・・	２
	みんなといっしょの運動会（障害者運動会）	・・・・・	３
	夏の親子レクリエーション	・・・・・	３
	地域ネットワーク事業	・・・・・	４
	地域介護予防活動支援事業	・・・・・	１０
	介護予防による地域づくり推進業務	・・・・・	１４
	生活支援体制整備事業	・・・・・	１６
	日野市居住支援事業に係る住宅相談等業務	・・・・・	１７
	日野市生活困窮者等子どもの学習等支援	・・・・・	１９
	視覚障害者への朗読広報作成（情報提供）業務	・・・・・	２０
在宅福祉事業	在宅高齢者ケアサービス事業	・・・・・	２２
	第１号訪問事業生活援助型	・・・・・	２６
	移送サービス（日野ハンディキャブ）事業	・・・・・	２７
	高齢者食事宅配サービス事業	・・・・・	２８
	車椅子貸出事業	・・・・・	３０
	コミュニケーション支援事業	・・・・・	３０
ボランティア活動推進事業	日野市ボランティア・センター	・・・・・	３３
	防災・減災をテーマにした地域づくり	・・・・・	４５
	日野市介護サポーター制度	・・・・・	５０
	日野市生涯学習支援ｼｽﾃﾑ ﾎﾟｰﾀﾙｻｲﾄ「Ｈｉ　Ｋｎｏｗ！」	・・・・・	５１
	ﾄｯﾌﾟｱｽﾘｰﾄ講演会及びｽﾎﾟｰﾂﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾐﾅｰ	・・・・・	５２
助成事業	歳末たすけあい地域福祉活動助成	・・・・・	５４
	地域支え合い福祉活動助成	・・・・・	５５
	ヒカリ興業奨学基金	・・・・・	５７
生活福祉資金貸付事業	生活福祉資金貸付事業	・・・・・	５８
	ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業	・・・・・	６０
福祉サービス利用援助事業	地域福祉権利擁護事業	・・・・・	６１
	権利擁護センター日野	・・・・・	６２
福祉人材育成事業	手話通訳者研修事業	・・・・・	６６
	手話講習会	・・・・・	６６
	福祉のしごと相談・面接会	・・・・・	６８
	福祉のしごと見学会	・・・・・	６９
	介護人材育成研修事業	・・・・・	７０
	実習生の受入	・・・・・	７１
法人運営事業	組織運営事業	・・・・・	７２

公益事業拠点区分

福祉センター管理事業	日野市立中央福祉センターの管理運営	・・・・・	８２
高齢者就業創出支援事業	しごとサポートひの	・・・・・	８３

収益事業拠点区分

自動販売機設置管理事業		・・・・・	８４
日野市役所内売店の運営		・・・・・	８５

共同募金運動

赤い羽根共同募金運動	日野地区協力会	・・・・・	８６
	日野地区配分推せん委員会	・・・・・	８７
歳末たすけあい運動		・・・・・	８８

日野市社会福祉協議会　組織体制 ・・・・・ ８９

地域福祉活動推進事業拠点区分

地域福祉事業

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td>障害者就労支援事業</td></tr>
<tr><td>事業形態</td><td>独自事業</td></tr>
<tr><td>財源内訳</td><td>利用料、会費、寄附金</td></tr>
<tr><td>担当係</td><td>在宅サービス係</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画における視点</td><td>ともにみまもる</td></tr>
<tr><td>目的</td><td>しごとパートナーを派遣することにより、既に就労またはこれから就労する障害者の社会参加活動等に寄与する。
障害者就業に関係する団体同士のネットワーク化を図り、連携を図る。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>１．しごとパートナー事業</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>１）実績
<table>
<tr><td></td><td>しごとパートナー</td><td>のべ派遣人数</td></tr>
<tr><td>30 年度</td><td>9 人</td><td>696 人</td></tr>
<tr><td>29 年度</td><td>10 人</td><td>769 人</td></tr>
</table>
■主な派遣先（活動内容）
すずかけの家（作業支援）
七生福祉園（市発達・教育支援センター エール清掃業務支援）
ふらっと・すずかけ（作業支援）

２）情報交換会　6 回（5/29,7/31,9/25,11/26,2/1,3/25）</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価方向性等</td><td>•障害福祉サービス事業所での訓練や生産活動の現場において支援活動を行った。
・平成 30 年度末をもって事業終了。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>２．日野市障害者就業支援連絡会</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>１）連絡会への出席　6 回（4/10,6/12,8/21,10/9,11/20,2/19）
各団体から障害者就労支援に関する情報交換および年度下半期に開催する障害者就業支援フェスタに向けての検討を行った。

２）障害者就業支援フェスタ in 多摩平の森 2018
（第 12 回日野市障害者就業支援セミナー）
<table>
<tr><td>開催日</td><td>場所</td><td>内容</td><td>参加者</td></tr>
<tr><td>12/8</td><td>ｲｵﾝﾎｰﾙ</td><td>・障害者雇用の状況等について
・日野市内の障害者雇用企業の取り組み
・当事者のみなさまとの意見交換
・団体紹介（ブース形式）</td><td>130 人</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業効果・評価方向性等</td><td>•幼年期から成人期まで各年代の当事者へ市内の障害者就労に関わっている団体が参加している連絡会の特長をさらに活かすため、次年度は各団体の取り組み発表の時間を設けていくことになった。
•障害者就業支援フェスタでは、市内の企業で働いている当事者との意見交換は昨年度に引き続き好評だった。また、障害当事者の働く場所として新たに就労継続支援事業所がブース出展した。</td></tr>
</table>

事業内容	**3．日野わーく・わーく**
実績報告	日野わーく・わーくは、市内の障害福祉サービス事業所が参加するネットワーク。社協は、連絡会や豊田駅北口ショップ、共同販売会等を側面支援。 1）連絡会　　毎月開催 2）広報協力 日野市ボランティア•センター広報紙「ボランティアⓘインフォメーション」（毎月発行）において、豊田駅北口ショップのイベント告知を掲載した。
事業効果・評価方向性等	•豊田駅北口ショップでの商品ＰＲのためショップ窓口への商品紹介の貼り出しを開始した。また、企業での昼食販売や大学での販売、日野レッドドルフィンズのグッズ製作等新たな仕事の受注があった。

事　業　名	**障害者及び高齢者団体等のバス借上補助**
事業形態	独自事業
財源内訳	会費、歳末たすけあい募金配分金
担当係	総務係
地域福祉活動計画における視点	ともにみまもる
目　　的	高齢者や障害者等外出機会の促進、市民活動の活性化を図るため、障害者団体や高齢者団体等が実施する研修や視察、ボランティア活動等で、民間バスを借り上げた費用の一部を補助をする。
事業内容	**1．助成金申請受付・決定・交付・事業報告書の精査**
実績報告	障害者団体や高齢者団体等が実施する研修や視察、ボランティア活動等で、民間バスを借り上げた費用の一部を補助する制度。申請書に基づいた利用区分に応じ、優遇措置を設定している。 1）事業内容

対象団体（利用区分）	補助率	限度額	交付回数
障害者団体（①）	補助対象経費の1/2	上限30,000円（リフト付きバス利用の場合、上限40,000円）	17回
高齢者団体（②）			12回
市内地域団体（③）	補助対象経費の1/4	上限20,000円（リフト付きバス利用の場合、上限30,000円）	4回
その他の団体（④）			0回

2）補助実績

		合計
30年度	交付件数 補助額	33件 1,430,700円
29年度	交付件数 補助額	29件 1,096,100円

事業効果・評価方向性等	•福祉バスふれあい号からの継続して利用されている団体が多く、移行についてはほぼ周知された。

事　業　名	**第22回みんなといっしょの運動会（障害者運動会）**
事業形態	共催事業（東京日野ライオンズクラブ/日野市）
財源内訳	寄附金・受託金（日野市）
担当係	ボランティア係
地域福祉活動計画における視点	ともにつくる
目　　的	体を動かす機会の少ない障害者の健康増進・運動促進を図るとともに、市内障害者施設・事業所や地域住民・ボランティア間の交流を図る。あわせて、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成を目的とする。
事業内容	**１．障害者運動会の開催**
実績報告	台風接近の予報に伴い、参加者の安全優先、不要不急の外出を控える、会場への送迎の混乱を避けるため止む無く中止した。
事業効果・評価方向性等	・台風の影響を考慮し中止となったが、参加団体からの「日野市内の施設で開催して欲しい」との声を受け、今年度は会場を従来の中央大学から日野市市民の森ふれあいホールに変更し開催する予定だった。令和元年度も同ホールを会場に障害者運動会を開催し、市内障害者施設・事業所と地域住民・ボランティア間の交流を図っていきたい。

事　業　名	**夏の親子レクリエーション**
事業形態	独自事業
財源内訳	参加費、歳末たすけあい配分金
担当係	総務係
地域福祉活動計画における視点	ともにみまもる
目　　的	ひとり親家庭の親子の交流及び障害児世帯の余暇活動を支援。
事業内容	**１．夏の親子レクリエーション（日帰りバス旅行）の開催**
実績報告	ひとり親家庭の親子の交流を深めること、障害児家庭の余暇支援を目的とした日帰りバス旅行（東京ディズニーランド）を実施した。 開催日 / 参加者（うち障害児世帯） 30年度 / 7/21 / 25世帯66人（5世帯15人） 29年度 / 7/22 / 28世帯71人（4世帯11人）
事業効果・評価方向性等	・アンケートによると満足度が非常に高く、リピーターの多い事業である。 ・歳末たすけあい募金を原資として充てていることを、募集時や当日資料等に明記し、参加者への周知に努めた。 ・昨年度、フードバンクTAMAよりお菓子の提供があり、大変好評だったため今年度も実施した。今年度は参加者に対しフードバンクTAMAへのありがとうメッセージを作成していただき、フードバンクTAMAからも感謝された。 ・昨年度と比べ参加者が減少した。今年の夏は例年以上の猛暑だったためと考えられる。令和元年度開催する場合は開催時期の検討が必要である。

事　業　名	**地域ネットワーク事業**
事業形態	独自事業
財源内訳	会費、赤い羽根共同募金配分金（小地域）、歳末たすけあい配分金
担当係	地域支援係
地域福祉活動計画における視点	ともにつくる
目　　的	住民や様々な団体と連携・協働し、課題発見の仕組みづくりや多様なネットワークの構築、地域の主体的な地域福祉・交流活動が図られるよう支援する。
事業内容	**１．地域担当の配置**
実績報告	・日野市の４つの生活圏域（ひの・とよだ・ひらやま・たかはた）ごと２人ずつ配置し、担当制での支援を継続した。 ・地区社協（ぷらっと南平）の支援をしながら共に活動した。また、南平以外の地域の検討を進めるために、地域力強化推進ネットワーク会議や地域懇談会、中学校区ごとのアクションプラン実行委員会等様々な地域の集まりにも積極的に参加した。 ・各担当地域のサロン活動等の支援や立ち上げの相談、介護予防教室の実施、介護予防活動団体の支援等を通して、地域との関わりを深めた。 ・ハンディキャブの新規利用者の訪問面接等を行った。 ・カエルキャラバン等の防災イベントや福祉体験講座等の実施に協力し、ボランティア係との連携を深めた。 ・在宅サービス係の事業と担当地域ごとに連携した。 ・地域担当職員の資質向上を図るため、地域福祉コーディネーターの研修、東京都社会福祉協議会の地域づくりを進めるコーディネーターの情報交換会等、研修や情報交換会に積極的に参加した。
事業効果・評価方向性等	・各地域担当が、地域福祉コーディネーターの役割が担えるよう、なるべく地域に出向き、活動に参加しながら、気軽に相談できる関係づくりを進めたことで、地域との関わりが深まった。 ・地区社協については日野市福祉政策課の考えもあり、社会福祉協議会として進め方の検討を継続している。 ・また、引きこもりの支援や、高次脳機能障害者支援の連絡会への出席等、地域の中の様々な課題に対応している。 ・業務の可視化を進めるため、アドバイザーの導入を検討している。

事業内容	**2．“みんなでつくる”ぷらっと協議会（地区社協）の運営支援**

実績報告

1）南平地区社協(みんなでつくるぷらっと協議会南平)

平成28年3月に設立。設立当初、役員会の開催場所等拠点として南平ふれあいサロンの場所をサロンが使用していない時に使用していたが、現在はほっとも南平を使用している。

3年が経過し、引き続き会の安定的な運営と維持に努め、合わせて多くの市民の方に知って頂くために、①伝える(広報・啓発活動)、②つなぐ(ネットワーク化)、③続ける(継続していく)の3つを柱として推進し、地区の活性化と住みやすいまちづくりを目指した。

①役員会　毎月開催

②運営委員会　毎月開催

③平成30年度南平地区社協定期総会

設立後3回目の定期総会を開催、閉会後に懇親会を実施。

日　時　5/19（土）

場　所　南平駅西交流センター第1会議室

参加者　42人

④南平23自治会懇談会

自治会長を対象に、講演会、地区社協の説明、自治会運営で日頃気になっている事等の意見交換をした。また2回目の懇談会では「防災」をテーマに開催し、対象を防災担当に含めて実施。それにより今まで参加がなかった自治会の参加が見られた。

開催日	会場	参加者
7/14	南平西部地区センター	27人（7自治会）
3/9	南平西部地区センター	29人（8自治会）

⑤地域みなみだいら交流会「希望のとびら」(子供の居場所を作る会)

大学生のボランティアの協力のもとに実施している地域の子供たちの居場所づくり。地域の自治会・住民等も参加している。またフードバンクＴＡＭＡに協力を仰ぎ、定期的にお菓子等の援助を受けられる体制ができた。

毎月第2・4水曜日の16時～19時に新川辺地区センターで開催。

現在35回開催しており、子供の登録者数は19名。

⑥会報誌「ぷらっと南平だより」の発行

9/15　ぷらっとだより3号の発行(4,000部)

3/5　ぷらっとだより4号の発行(4,500部)

⑦他団体の事業等への協力・参加

開催日	内容	場所
4/8	ひのミュージックフェス	日野中央公園
5/13	南平駅西交流ｾﾝﾀｰ運営委員会	南平駅西交流センター
5/14	七生中ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ実行委員会	七生中学校
5/22	商工会プラットホーム会議	ほっとも南平
6/13	七生中ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ実行委員会	七生中学校
6/15	七生中宿泊防災ｷｬﾝﾌﾟ打合せ	七生中学校

6/10	コスモスアベニュー種まき	浅川スポーツ公園
6/28	すずらん地域ケア会議	南平西部地区センター
7/21	七生中地区地域懇談会	七生中学校
7/21	豊田小まつり	豊田小学校
7/23	七生中ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ実行委員会	七生中学校
7/31	平山圏域地域ケア会議	平山交流センター
7/31	七生中宿泊防災ｷｬﾝﾌﾟ打合せ	七生中学校
8/4	ひの市民活動支援センターまつり	ひの市民活動支援センター
8/6	商工会プラットホーム会議	南平駅西交流センター
8/17-18	七生中宿泊防災キャンプ	七生中学校
8/22	七生中ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ実行委員会	七生中学校
9/7	七生中ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ実行委員会	七生中学校
9/15	ななおBONまつり	南平体育館
9/19	すずらん地域ケア会議	南平西部地区センター
10/13	南平小まつり	南平小学校
10/21	まちづくり市民フェア参加 災害時住民救護訓練講習	日野市市民の森 ふれあいホール
12/2	歳末たすけあいバザー	日野市社会福祉協議会

⑧買い物お助けサービスの協力

社会福祉法人友遊の家における地域公益活動の一環として、高齢や障害等により買い物や移動に配慮が必要な方に、近隣のスーパーマーケットまで車両による買い物支援サービスを開始した。その活動に地区社協も乗降時の見守り、店内の買い物のサポート等で協力している。

2）「地域力強化推進事業」支援ネットワーク委員会（わがまる委員会）への参加

市内２カ所目の地区社協へ向けての検討も含め、「とよだ圏域」で今年度より開催されることになった地域力強化推進ネットワーク委員会に出席し、専門職のネットワークを推進し、市民への働きかけを検討した。

①委員会への出席　５回（9/13,10/25,11/29,1/24,2/28）

②わがまる相談会

日程	会場
10/18	多摩平の森自治会共催映画会「人生フルーツ」会場にて
11/3	愛隣舎バザーにて
2/9	多摩平の森ふれあい館まつりにて
3/21	多摩平の森自治会共催映画会「ケアニン」会場にて

事業効果・評価 方向性等	•地区社協の活動に賛同して多様な会員が増えてきた。近隣の社会福祉法人（友遊の家、すずかけの会、マザアス）、地元のプロダクション会社等。地域の様々なイベントや会議等に参加し広報活動をしてきた事が少しずつ実を結びつつある。 ・地区社協の拠点として飯田ビル１階（日野市南平８－14－4）の使用を検討。施設利用に関する覚書を作成。来年度からはそこを拠点に定期的な活動をしていく。

	・市内２カ所目の地区社協の展開に向けて検討継続しているが、現状では市の動きに合わせて「地域力強化推進事業」との関わりや、令和元年度より始まる第２層協議体との関わりの整理が必要な状況である。

事業内容	**３．地域懇談会アクションプラン実行委員会との連携・協働**
実績報告	

１）地域懇談会

日野市地域協働課主催の地域懇談会に出席し、地域の関係者の把握とネットワークづくりを図った。

平成30年度第１回地域懇談会

日時	地区	会場
6/16	三中地区	三中食堂
	三沢中地区	三沢中食堂
6/23	四中地区	四中食堂
	大坂上中地区	新町交流センター
7/14	平山中地区	平山中食堂
	一中地区	一中食堂
7/21	二中地区	かわせみハウス
	七生中地区	七生中食堂

平成30年度第２回地域懇談会

日時	地区	会場
12/15	平山中地区	平山中食堂
	七生中地区	七生中食堂
12/16	四中地区	四中食堂
	三中地区	三中食堂
1/26	二中地区	多摩平の森交流センター
	一中地区	一中食堂
2/2	三沢中地区	三沢中食堂
	大坂上中地区	新町交流センター

２）各地域アクションプラン実行委員会

地域を活性化するために実行するアクションプランの実行委員会にも、必要に応じて継続的に出席した。

地区	内容・実行委員会開催日
三沢中学校	「ちょこっと声かけ隊」 6/24,7/29炊出し食事会、8/19流しそうめん、11/24,25ごみゼロ収穫祭、12/16みちあそび、1/27もちつき 4/19,5/17,6/21,7/19,8/22,9/27,10/17,25,11/8,21,12/6,14,1/16,3/20
七生中学校	「ななおBONまつり」(9/15) 5/14,6/13,7/23,8/22,9/7,10/9反省会
日野第三中学校	「簡単防災訓練」 4/18,5/16,6/26,7/24,8/28,9/25,10/16,11/20,12/19 1/28,2/20,3/18 「程久保駅周辺を考える会」 10/9,11/13,12/4,1/22

日野第一中学校	「「たて糸よこ糸プロジェクト」 4/11,24、5/8,15,20,29,6/17,7/4,8/7,9/4,27,10/14
平山中学校	「平山わの会」 4/23,5/23,6/25,7/26,8/31,9/26,11/26,12/17,2/4 2/18　平山縁日実行委員会,3/25
日野第二中学校	「二中Burunninng」(11/17,3/30) 4/24,6/11,7/3,8/18,10/7,12/5,1/17,2/11
大坂上中学校	実行委員会による活動なし
日野第四中学校	「ラジオ体操で地域がつながる」(8/25) 4/4,5/8,29,6/19,29,7/10,17,31,8/7,21,24,31,1/10 2/4 「旭が丘地区センターお披露目まつり」4/1 「旭ヶ丘桜まつり」3/30 「スタディカフェ」2/21,22

3）他自治体の活動の視察

日程	行き先等
5/9	長野県長野市「まちの縁側プロジェクト」 地域協働課が実施した視察に同行し、地域活動の在り方、特に地域の居場所づくりについて探った。
6/27	国分寺市「カフェといろいろびより」
7/5	国立市「やぼろじ」、「ここたの」
12/28	小金井市「また明日」

事業効果・評価方向性等	・地域懇談会やアクションプランの検討・実施に関わることで、より地域との関係が深められた。今後は、この関係を生かして、地域づくりをどのように進めていくかの検討が必要である。

事業内容	**4．地域福祉活動団体への支援**

実績報告

1）各地域活動への支援

①日野本町サロン「縁がわ」2回（4/10,9/11）
日野本町で高齢者を中心とした多世代が集うサロンのスタッフ打合せ会に出席。

②あったかい手とて　3回（9/6,10/4,1/10）
都営多摩平四丁目アパートでの学習型サロン活動に継続して支援を行っているが、徐々に自主的な活動に切り替えられるよう支援している。

③よりみちさくら　3回（5/17,9/20,2/21）
ＵＲ多摩平の森さくら集会所で開催する常設型サロン。自治会・地域包括支援センターと打ち合わせし、年3回の地域ケア会議に出席している。

④明星地区つながりの家「アムール」（平成30年4月開設）
開所式　4/2
スタッフ会議に出席
（4/24,5/22,6/26,7/24,8/28,11/27,1/29,2/19,3/19）
＊地域包括支援センター主催の介護予防教室のセッティングやひの健幸貯筋体操も実施している。

⑤ぬくもりテラス開設への支援
新しく南平駅西交流センターで、平山圏域の包括が協力しながら認知症支援を念頭に置いたサロン活動の開始に当たり、検討会議への参加や、当日の支援などに関わった。
5/26 オープン6/23,7/28,8/25,9/22,10/27,12/22,1/26,2/23,3/23
打合せ　4/11,7/23,9/14,1/16,2/15

⑥引きこもり家族会への支援
4/30,1/26,

2）交流ひろばＣａｆé
高齢者、障害者、子育て中の親子、外国人、若者等を対象に、市民の居場所や交流の場づくりの活動をしている団体の情報交換の場を開催。

開催日	内容	会場	参加者
12/12	①活動紹介・情報交換 ②ボランティアとの付き合い方 （明星大学きらきらボランティアセンター、中央大学ボランティアセンター、日野市ボランティア・センター）	多摩平の森ふれあい館	30人
2/28	①サロン活動助成説明会 ②活動報告・情報交換	市民の森ふれあいホール	50人

事業効果・評価方向性等

・市民のサロン活動への関心が高く、高齢者だけではなく、幅広く市民に呼びかけるものや、こども食堂等の相談も増えてきた。その一方で、長く継続していた団体から、スタッフの高齢化で継続が難しく、終了したいという相談も受けている。
・立ち上げに関する相談も増えている中で、既存の団体とも丁寧に関わって、無理なく続けていただけるよう支援していきたい。

事　業　名	**地域介護予防活動支援事業**
事業形態	受託事業（日野市）
財源内訳	受託金
担当係	地域支援係
地域福祉活動計画における視点	ともにつくる
目　　的	高齢者が、自ら要介護・要支援状態になることの予防に努めることができる環境を整備し、地域住民や団体による自主的な介護予防活動を育成し、支援する活動を行う。
事業内容	**１．介護予防教室の開催**

実績報告

介護予防教室の実施を日野市から受託し、年間約72回程度（市内9カ所の地域包括支援センターの圏域で約8回ずつ）開催した。

1）実績

生活圏域	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	開催日	開催回数	参加者
ひの	せせらぎ	4/10,10/13,10/18,10/23 11/15,12/20,1/17,2/21 2/26	9回	206人
	多摩川苑	10/5,11/9,2/13,2/27,3/13 3/27,3/29	7回	150人
とよだ	あいりん	4/26,6/18,6/28,7/26,9/27 10/25,12/13,12/17,3/28	10回	275人
	すてっぷ	4/18,5/16,6/20,7/18,9/19 10/17,11/21,12/19,1/16 2/20	10回	338人
ひらやま	すずらん	6/25,7/3,8/6,9/21,10/12 11/27,1/7,3/4	8回	94人
	いきいきタウン	6/5,7/17,8/27,9/4,10/2 11/6,12/4,3/20	8回	175人
	かわきた	7/18,8/14,9/28,10/17 10/31,11/20,12/18,2/13	8回	103人
たかはた	あさかわ	8/6,8/13,10/12,10/26 1/25,2/8,2/19,3/5	8回	116人
	もぐさ	7/13,7/27,10/5,11/9 11/30,12/14,2/20,3/20	8回	96人
合計			76回	1,553人

2）内容・会場

内容は、転倒予防体操を主に、音楽やストレッチ体操、ヨガ等といった様々な形で体を動かすものとしている。

地域包括支援センターによる啓発も継続して実施した。

また、啓発を兼ねているため、地域包括支援センターと相談しながら、なるべく市内の様々な会場で実施するようにしている。

事業効果・評価方向性等	・地域包括支援センターとの関係を保ちつつ、自主的な活動を増やす方向で支援しているが、一定数は市が主催する教室も必要と感じている。

	・住民の自主的な活動を支援するためには、少しでも多くの方が、介護予防は大切だ、参加してみたい、自分の健康は自分で守るという意識を持ってもらえるような働きかけを考えていくことが必要である。
事業内容	**２．ひの健幸貯筋体操の普及・啓発**

実績報告

１）「ひの健幸貯筋体操」に取り組む団体への支援

今年度新たに取り組んだ団体　13か所（内自主化12カ所）

住民主体での介護予防活動を広めるために、昨年度から、「ひの健幸貯筋体操（ひの筋体操）」の普及に取り組んでいる。

希望された団体を対象に、新たなメンバーを受け入れていただくこと、登録団体になること等を条件に、3カ月程度の体操指導や重りの貸出等を行った。3カ月終了後は活動を支援するために継続してモニタリングを行っている。

実施団体	会場	開催日	延べ参加者数
明星地区つながりの家アムール	明星地区つながりの家アムール	8/20,27,28,9/3,6,10,13,20,27 10/1,4,11,12,15,18,22,25,29 11/1,5,8,15,19,26,22,29 モニタリング2/14	219人
落川元気会	落川都営地区センター	4/5,19,5/17,6/7,21 モニタリング11/15	80 人
恵比寿会	新川辺地区センター	9/3,10/1,15,11/5,19,12/3,17	149 人
寿楽会	ひの社会教育センター	4/13,27,5/11,25,6/8,22 モニタリング9/14	50 人
木の実会	滝合地区センター	6/5,19,7/3,17,8/7,21,9/4,18 モニタリング12/18,3/5	85 人
日老連健康体操	七生福祉センター	4/13,20,27,5/11,18,25, 6/1,8,15,22,29 モニタリング10/19,1/11	450 人
豊田団地シニアクラブ	西平山地区センター	5/31,6/7,14,7/5,19,8/2,16,30 モニタリング11/1,2/21	122 人
ふれあいサロンソレイユ	ふれあいサロンソレイユ	4/10,24,5/8,22,6/12,26 モニタリング10/9,11/29,3/26	84人
南新井ふれあいサロン	南新井ふれあいサロン	4/13,27,5/11,25,6/8,22 モニタリング10/26,2/22	117人
南平ふれあいサロン	南平ふれあいサロン	4/23,5/18,21,28,6/12,19,26, 7/3,10,24,31 体力測定5/7,8/7 モニタリング10/16,1/22	145人
ふれあいサロンひだまり	ふれあいサロンひだまり	モニタリング6/20,9/19,12/12	34人
平山4丁目麦の会	平山4丁目ｱﾊﾟｰﾄ集会室	10/5,19,11/2,16,30,12/14,21 モニタリング3/15	88人
ファミール高幡	百草台コミュニティセンター	3/1,15,22,29	38人
ピアあさひ	シルバーピア旭が丘	12/8,22,1/12,19,2/2,16,23	56人
鹿島台ふれあいサークル	鹿島台地区センター	モニタリング6/29,10/3	31人
気にかけネットワーク	平山苑地区センター	モニタリング4/25,7/25	24人

茶の間会老人クラブ	新川辺 地区センター	モニタリング3/27	22人
大和田健筋体操会	大和田 地区センター	モニタリング4/16,7/9,1/21	46人
元気印健康クラブ	多摩平都営4丁目アパート集会所	モニタリング6/14,3/28	20人
健幸会	百草 地区センター	モニタリング6/14,9/13	12人
豊四 健康クラブ	豊田南 地区センター	モニタリング6/16,9/15	61人
レモン倶楽部	新井団地集会所	モニタリング 4/24,6/12,10/9,12/11	40人
よりみちさくら体操クラブ	多摩平の森さくら集会所	モニタリング6/14,8/23,3/28	91人
さざんかの会	宮地区センター	モニタリング6/5	12人
ふれあい サロン万願荘	万願荘 地区センター	モニタリング6/8,3/29	51人
栄町ふれあいサークル 体操会	新東光寺 地区センター	モニタリング7/27,11/16	23人
和楽会	わかたけ 地区センター	モニタリング6/7,10/4,12/20	42人
百草団地ふれあいサロン	百草団地 ふれあいサロン	モニタリング8/17	16人
合計			2,208人

※参加者の実人数　　約293人

※デモ実施　2団体

トマトの会（都営日野平山アパート集会室）

シティハイツ体操の会（日野旭が丘シティハイツ）

2）シニア体力測定会（圏域ごと）

圏域	開催日	会場	参加者
たかはた	7/4	福祉支援センター	31人
とよだ	9/26	多摩平の森ふれあい館	15人
ひらやま	12/7	平山交流センター	24人
ひの	3/12	中央福祉センター	26人

3）ひの筋サポーター養成講座の実施

開催日	会場	内容	参加者
3/19	中央福祉センター	・介護予防とは ・ひの筋体操の実際と注意点 ・体力測定の方法 講師　免田伸子　氏 （理学療法士）	10人

4）ひの筋体操を広く知ってもらうための広報活動

日老連健康講演会で、ひの筋体操の説明とデモンストレーションを実施。七生支所ではひの筋ＤＶＤの放映と重りの展示を行った。

また、広報ひのやひの社協だよりに掲載する他、イオンモール多摩平の森内の液晶ディスプレイで宣伝を行った。

	日野ウォークフェスタでも、ひの筋体操のデモンストレーションと体力測定を行った。
事業効果・評価方向性等	・「ひの健幸貯筋体操」の普及・啓発を進めることで、介護予防を地域で自主的に行う団体を増やし、高齢者が、身近なところで週に1回程度体操に参加できることを目標に取組みを継続している。 ・少しずつ、市民に広まってきているようで、着実に団体も増えてきている。主に会場の都合で、週1回実施が難しい点が課題である。
事業内容	**3．地域介護予防活動団体の登録支援**
実績報告	1）既存の団体の登録支援 介護予防に資する体操または運動をしている団体に、「日野市介護予防活動団体」として登録してもらい、Hi know!に掲載の他、広報ひの（9/1号、3/1号）等で広く周知を行った。 登録団体　14団体（うち30年度登録団体　7団体） 2）ひの健幸貯筋体操実施団体の登録支援 「ひの健幸貯筋体操」を行う団体に対し、継続的な活動が行えるよう支援を行った。 登録団体　　29団体（うち30年度立ち上げ団体　13団体）

	ひの筋	介護予防活動団体	場所
①	★	元気印健康クラブ	多摩平4丁目ＡＰ集会所
②	★	気にかけネットワーク	平山苑地区センター
③		地域交流スペースひだまり	下田地区センター
④	★	健幸会	百草地区センター
⑤	★	豊四健康クラブ	豊田南地区センター
⑥		ハッピーソング会	日野三沢ＡＰ集会所
⑦	★	鹿島台ふれあいサークル	鹿島台地区センター
⑧		歌で楽しむ元気会	七生福祉センター
⑨	★	レモン倶楽部	新井団地集会所
⑩	★	落川元気会	落川都営住宅地区センター
⑪	★	よりみち体操クラブ	さくら集会所
⑫	★	さざんかの会	宮地区センター
⑬	★	ｼﾙﾊﾞｰﾋﾟｱおおさかうえ10号棟	ｼﾙﾊﾞｰﾋﾟｱおおさかうえ 10号棟団らん室
⑭	★	ふれあいサロン万願荘	万願荘地区センター
⑮		シャル ウィ ダンス	勤労青年会館
⑯		元気な音楽の広場	七生福祉センター
⑰	★	愛隣舎 談話室	愛隣舎ホール
⑱	★	ひまわり	日野台2丁目地区センター
⑲	★	栄町ふれあいｸﾞﾙｰﾌﾟ体操会	新東光寺地区センター
⑳		こもれび	東神明地区センター
㉑	★	和楽会	新井わかたけ地区センター

㉒	★	百草団地ふれあいサロン	百草団地商店街内
㉓	★	大和田健筋体操	大和田地区センター
㉔		あさひ健幸体操	旭ヶ丘地区センター
㉕		青春グループ	シティハイツ集会所
㉖	★	ひだまり（ふれあいサロン）	ふれあいサロンひだまり
㉗	★	ふれあいサロン南平	ふれあいサロン南平
㉘	★	豊田団地シニアクラブ	西平山地区センター
㉙	★	南新井ふれあいサロン	南新井ふれあいサロン
㉚		ふれあいあじさいサロン	高幡市営住宅地区センター
㉛	★	寿楽会	ひの社会教育センター
㉜	★	日老連体操クラブ	七生福祉センター
㉝	★	ふれあいサロンソレイユ	ふれあいサロンソレイユ
㉞	★	滝合木の実会	滝合地区センター
㉟	★	平山４丁目麦の会	平山4丁目アパート集会所
㊱		日野ラジオ体操会	多摩平第一公園
㊲		仲田ラジオ体操会	市民の森スポーツ公園エントランス広場
㊳		旭が丘ラジオ体操会	旭が丘中央公園
㊴	★	茶の間会老人クラブ	新川辺地区センター
㊵	★	アムール	程久保2-6-14
㊶	★	ピアあさひ	シルバーピアあさひがおか集会所
㊷		新町ラジオ体操会	新町交流センター
㊸		自主体操グループin福祉支援センター	福祉支援センター

３）よろず情報交換会（東京都介護予防推進センター主催）の紹介

各登録団体に、9月27日に立川市で行われた東京都のよろず情報交換会の情報提供を行った。登録団体の代表2名と、地域支援係職員1名が出席し、他市区の状況等について情報交換を行った。

事業効果・評価方向性等	・各団体には丁寧に説明をしながら、徐々に登録団体を増やすことで、高齢者が身近なところで介護予防の活動に参加できることを目指している。 ・登録団体が増え、広報ひのに掲載されるとそれなりに反応があるため、来年度以降は冊子を作成して情報提供も行っていきたい。

事　業　名	**介護予防による地域づくり推進員業務**
事業形態	受託事業（日野市）
財源内訳	受託金
担当係	地域支援係
地域福祉活動計画における視点	ともにつくる
目　　的	市の委託を受け、「介護予防による地域づくり推進員」を配置し、主に高齢者の自主的な活動を育成することを目的に地域づくりを行うための企画•検討を行う。

事業内容	**1．関係機関との連携・ネットワークの構築**
実績報告	1）介護予防を推進するための体制整備 ①高齢福祉課・地域包括支援センター等との打合せを行い、地域ごとの介護予防の進め方を検討し、連携して事業を進める。　54回 他自治体の視察　2回 ②介護予防ボランティア等担い手の育成 ひの筋サポーター養成講座　1回 ③介護予防事業の効果測定（シニア体力測定会）　4回 ④住民向けに説明会等行い、通いの場について普及啓発を行う サロン、老人クラブ、自治会等で体操の紹介　52回 ⑤リハネット・事業所等との打合せ　5回 2）住民主体の介護予防活動への支援 ①介護予防活動団体の立ち上げ、継続の相談・支援　98回 ②地域介護予防活動団体の発掘及び登録支援 登録依頼、相談、手続き支援等　29回 ③PT等の専門職と連携し、効果測定や動機づけを行う　12回 ④イベント等での呼びかけ 商業施設でのパネル広告、市役所支所にて展示 老人クラブ主催健康講演会での紹介 ひのウォークフェスタで体力測定会 ⑤広報ひの、ひの社協だより、Hi know!にて活動団体紹介 広報ひのにて、活動団体一覧とマップの掲載　2回 ウェブサイト　Hi know!にて団体紹介　31団体 冊子の検討 ⑥介護予防による地域づくり推進員としての研修・情報交換会への参加 16回
事業効果・評価 方向性等	・平成30年度は、介護予防による地域づくり推進員として、介護予防事業の展開を重視して活動した。実際に市民による自主的な「通いの場づくり」の活動支援として導入した「ひの健幸貯筋体操」を実施する団体も順調に増えている。 ・「Hi Know!」や広報ひの等の活用による地域介護予防活動団体の支援も行った。 ・今後さらに地域の基盤づくりを進め、介護予防の必要性や住民自らで活動する大切さを伝えていくことが必要で、推進員の重要な任務だと思われる。

事　業　名	**生活支援体制整備事業（第１層協議体）（新規）**
事業形態	受託事業（日野市）
財源内訳	受託金
担当係	地域支援係
地域福祉活動計画における視点	ともにつくる
目的	介護保険制度の中の新しい職種である第１層生活支援コーディネーターを受託し、主として介護保険要支援者や要支援になる恐れのある高齢者を対象に、地域で支え合える体制づくりを行う。第１層は日野市全体を対象にし、そのための第１層の協議体を開催し、様々な分野の専門職や地域の活動団体のネットワークを創り、情報交換や意見集約を行う。
事業内容	**第１層協議体の開催**
実績報告	１）第１層協議体の運営　４回（5/30,8/22,11/28,2/20） 会場　日野市役所会議室 ＊第１層協議体構成員（順不同敬称略） 湯口裕　（ひの市民活動団体連絡会） 岡信行　（日野市シルバー人材センター） 菅原拓　（ひのケアマネ協議会） 菅原望　（ひのリハビリテーションネットワーク） 佐藤春俊　（日野市介護保険関連施設連絡協議会） 石岡基　（日野市在宅介護事業者連絡会） 平出實　（日野市老人クラブ連合会） 日下眞紀　（日野市民生委員・児童委員協議会） 堀田志保子（日野市地域包括支援センターあさかわ） 高原洋平　（日野市健康福祉部高齢福祉課介護保険担当主幹） 堀口尚孝　（日野市健康福祉部高齢福祉課介護給付係長） 多賀聡子　（日野市第１層生活支援コーディネーター） ２）地域ケア会議への出席 ①地域包括支援センターすずらん地区　２回（6/28,9/19） ②ひらやま圏域　１回（7/31） ３）地域包括支援センターとの打合せ 第２層協議体の開催に向けて、第１層生活支援コーディネーター、第２層協議体を担当する地域支援係及び在宅サービス係と地域包括支援センターとで打合せを行った。

開催日	
3/14	たかはた圏域地域ケア会議
3/15	ひの圏域地域ケア会議
3/19	とよだ圏域地域ケア会議
3/22	ひらやま圏域地域ケア会議
3/25	とよだ圏域第２層打合せ

事業効果・評価 方向性等	・第１層協議体では、日野市全域を対象とした課題を出し合った。 ・また情報交換を行って、参加団体のネットワークの構築を行った。 ・令和元年度には、第２層生活支援コーディネーターが各地域包括支援センターに配置され、圏域ごとに第２層協議体を行っていく予定となっているため、第１層協議体で話し合った内容を引き継いでいく必要がある。 ・年度末には、次年度の実施へ向けて第２層協議体のあり方について圏域ごとに地域包括支援センターと話し合いを開始した。

事　業　名	**日野市居住支援事業に係る住宅相談等業務（新規）**
事業形態	受託事業（日野市）
財源内訳	受託金
担当係	総務係
地域福祉活動計画 における視点	ともにみまもる
目　　的	住宅確保要配慮者（低額所得者、高齢者、障害者等）を対象とした住宅相談窓口を設置し、必要となる居住支援サービスの案内と併せて民間賃貸住宅への円滑な入居を支援する。また、相談者のニーズを把握し、入居に至らない要因の整理や課題解決の方法等の検討、住宅セーフティネット機能の強化を図る。
事業内容	**１．相談窓口の設置**
実績報告	相談窓口の名称を「あんしん住まいる日野」とし、平成30年6月7日から下記のとおり実施した。相談業務はNPO法人東京オレンヂに再委託した。 １）日時　毎週木曜日　13：00～/14：30～/16：00～　1日3人まで（各1時間） ２）場所　日野市役所内会議室 ３）相談実績

		相談者内訳（重複あり）			
	相談者数	高齢	障害	生保・低所得	その他
6月	11人	9人	3人	9人	1人
7月	9人	6人	4人	6人	1人
8月	8人	6人	2人	6人	0人
9月	5人	5人	1人	3人	1人
10月	3人	3人	1人	2人	0人
11月	3人	3人	0人	3人	0人
12月	4人	2人	2人	1人	1人
1月	4人	4人	0人	1人	0人
2月	9人	5人	3人	3人	2人
3月	2人	1人	1人	1人	0人
合計	58人	44人	17人	35人	4人

その他　DV被害者、外国人、被災者等

４）転宅実績　9人

事業効果・評価 方向性等	•家族関係や金銭管理といった生活課題を抱えている方が多くいることに気付かされた。また、相談者が自分自身の課題を把握していない状況も見受けられた。相談者が今後も日野市で安心して生活し続けるためにどのような支援ができるのか、委託元である都市計画課及び再委託先の東京オレンヂとともに考えていく。 ・相談者数が伸び悩んだ。必要な方への周知方法を検討する必要がある。 ・相談者は専門機関（ケースワーカー、ケアマネージャー等）からの紹介が多いため、専門機関向けに事業説明や周知を図っていきたい。
事業内容	**２．関係機関との連携**
実績報告	１）日野市居住支援協議会への出席　4回（4/20,7/30,11/21,3/20） ２）定例会への出席　5回（7/12,8/16,1/10,2/7,3/14） 月例報告、相談者への支援方法、相談窓口と関係機関との連携方法等を話し合うための定例会に出席した。 出席者　日野市関係部署（都市計画課、高齢福祉課、障害福祉課 生活福祉課、セーフティネットコールセンター） NPO法人東京オレンヂ ３）不動産業者向け説明会への出席　1回（5/18） 事業開始に伴い、市内不動産事業者に対する事業説明会に出席した。 ４）ひの圏域ケアマネ交流会への参加　1回（2/26）
事業効果・評価 方向性等	・ひの圏域ケアマネ交流会において、「あんしん住まいる日野」のPR活動を行った。参加者アンケートによると、参加者の半数が「あんしん住まいる日野をあまり知らない・まったく知らない」という結果だったため、まずは専門職への周知を図るため、今後も別圏域においてPR活動を行っていく。

事　業　名	**日野市生活困窮者等子どもの学習等支援**
事業形態	受託事業（日野市）
財源内訳	受託金、利用料
担当係	地域支援係
地域福祉活動計画における視点	ともにみまもる
目　　的	生活困窮世帯等で、家庭環境や社会生活上の課題を抱えた子供を対象として、居場所や学習の支援を通してコミュニケーション能力や学習習慣等の育成を行うと同時に、高校への進学を目的とした学習支援業務を行い、貧困の連鎖を食い止め困難を抱えた生活困窮者等の子どもの社会的自立を図る。
事業内容	**ほっとも南平の運営**

実績報告

「ほっとも」は、生活困窮者自立支援法に基づき日野市が実施する子どもの学習等支援事業。市内４ヶ所目として南平に開設し、２年目を迎えた。主に平山中学校と七生中学校の学区を受け持っている。

１）事業内容
毎週月・木　16:30～20:00
小・中学生併せて定員 25 名（市からの紹介で利用開始）
平成 30 年度末登録者　中学生７名、小学生３名
中学生は主に学習支援、小学生は主に居場所支援を行う。
１食 300 円で夕食を提供する。帰りは必要に応じ自宅まで送る。

２）支援者
統括責任者１名、会場管理者３名を交代で配置。
学習支援コーディネーター１人、居場所支援指導員１人を配置。
その他、子どもの人数に応じて大学生等の学習サポーター６名が交替で勤務した。またタ食作りに調理補助２名が交替で勤務。

３）事業開催回数・参加者
開催回数　　９１回
参加者　　延べ３３２人
スタッフ　　延べ３９５人
ボランティア　延べ２０人

４）イベント等

開催日	内容
8/23	夏休み体験会（ブルーベリー摘み）
3/14	体育館で卓球大会

＊その他、クリスマス会クッキーづくり、バレンタインチョコマフィン作り、餃子作り等

５）関係会議への出席

開催日	内容
5/29	アレルギー対応研修（二中）
6/7	子ども家庭支援センター連絡協議会（七生中地区）
6/23	市内ほっとも担当者研修会
7/19	子ども家庭支援センター関係者連絡会（西地区）

9/3	七生中にてカンファレンス
12/10	市内ほっとも情報交換会
12/17	七生中にてカンファレンス
12/26	子ども家庭支援センターに相談
1/7	子どもの学習支援事業従事者研修
2/15	子ども家庭支援センター関係者連絡会（平山中）
2/16	市内ほっとも従事者研修に参加
2/19	子ども家庭支援センター関係者連絡会（七生中）

事業効果・評価方向性等	・引き続き、登録はしても参加が難しい子どもが多く、参加者数が読めない状況である。そのため、登録前の体験利用を手厚くするようになった。 ・障害のある、あるいはその傾向がある子どもも多く、市や関係者と連絡を取り合いながら丁寧に対応していく必要がある。支援者のスキルアップも求められる。 ・中学生が、なかなか意欲を持って学習に取り組めず、学習支援の場としてのほっともの役割を十分に果たせていない状況にある。強制はできないが、やる気を出せるような工夫が求められる。 ・なるべく体験の機会を作りたいと考え、夏にブルーベル―摘み、冬に体育館での運動を行ったほか、合間にお菓子作りや料理体験など行っている。 ・まだ利用者が少ないが、人数が増えた時点で、勉強に集中できる場所や送迎の工夫等、検討する必要がある。

事　業　名	**視覚障害者への朗読広報作成（情報提供）業務**
事業形態	受託事業（日野市）
財源内訳	受託金
担当係	総務係
地域福祉活動計画における視点	ともにみまもる
目　　的	日野市の情報のデイジー版を作成（録音・編集）し、視覚に障害のある方へ日常生活に必要な情報の提供を行う。
事業内容	**１．朗読（デイジー）版「広報ひの」の作成（年２４回）**
実績報告	日野市へ登録した市内の視覚障害者へ「広報ひの」音訳版を作成（録音・編集・郵袋作業）し、自宅へ郵送した。業務委託：朗読サークルひの １）業務実績

年度	登録者数	登録	回数
30年度	29件 個人　24件 団体　1団体／5件	新規 0件 中止 0件	24回
29年度	29件 個人　24件 団体　1団体／5件	新規 0件 中止 0件	24回

<table>
<tr><td>事業内容</td><td>２．朗読（デイジー）版「ひの市議会だより」の作成（年４回）</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>日野市へ登録した市内の視覚障害者へ「ひの市議会だより」音訳版を作成（録音・編集・郵袋作業）し、自宅へ郵送した。業務委託：朗読サークルひの
１）業務実績
<table>
<tr><td></td><td>登録者数</td><td>回数</td><td>作業工程</td></tr>
<tr><td>30年度</td><td>合計　29件</td><td>4回</td><td>録音　4回
編集　4回</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>合計　29件</td><td>4回</td><td>録音　4回
編集　4回</td></tr>
</table>
※郵袋は広報ひのとともに作業実施</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・視覚障害者への情報保障として、「広報ひの」および「市議会だより」の音訳版を作成した。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>３．朗読版「日野市暮らしの便利帳 2019」の作成</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>登録する市内視覚障害者へ「日野市暮らしの便利帳 2019」音訳版を作成（録音・編集・郵袋作業）し、自宅へ郵送した。（2 月）
音訳作成業務：朗読サークルひの
１）業務実績
<table>
<tr><td></td><td>登録者数</td><td>回数</td><td>作業工程</td></tr>
<tr><td>30年度</td><td>合計　29件</td><td>1回</td><td>録音　各1回
編集　各1回</td></tr>
</table>
※郵袋は広報ひのとともに作業実施</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・視覚障害者への情報保障として、「日野市暮らしの便利帳 2019」の音訳版を作成した。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>４．音訳者の育成・確保（協力事業）</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>朗読サークルひのが主催する音訳ボランティア養成講座開催にあたり、広報周知や会場提供等の協力を行った。

１）音訳ボランティア養成講座（中級）の実施
開催日　9/11、9/25、10/2、10/9（全４回）
講　師　高橋久美子　氏（音訳者育成・指導者）
会　場　中央福祉センター集会室３
対　象　初級講座修了者
受講者数　７人</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・障害者差別解消法の施行に伴い、障害者への合理的な配慮が求められる中、視覚障害者に対する情報保障のための音訳作業（朗読）を行う新たな担い手（音訳者）の育成が重要となっている。平成 29 年度に実施した「音訳ボランティア（初級）養成講座」受講者を対象に、朗読サークルひのが主催する「音訳ボランティア養成講座（中級）」への協力（広報＆会場提供）を行ったところ、7 名の参加があった。地域の団体とともに人材育成を行うことは今後も継続することが大切である。</td></tr>
</table>

在宅福祉事業

事　業　名	**在宅高齢者ケアサービス事業**
事業形態	補助事業（日野市）
財源内訳	補助金、参加費、利用料
担当係	在宅サービス係
地域福祉活動計画における視点	ともにみまもる
目　　的	日常生活に支援が必要な在宅高齢者に、市民参加による会員制の家事援助等を中心としたサービスや体操、サロン、クラブ活動等の交流事業を実施することで市民相互の支え合いの仕組みをつくりながら在宅生活を支援する。
事業内容	**１．利用会員（在宅高齢者）の生活支援**

具体的内容

1）職員の体制

日野市高齢者福祉総合計画において取り入れられた４つの日常生活圏域（ひの・とよだ・たかはた・ひらやま）に合わせて相談員（職員）を地域担当制で配置し、高齢者食事宅配サービス、第１号訪問事業生活援助型も含めた複合的な相談に対応している。

■ひの圏域
日野本町・神明・日野台１～３丁目・栄町・新町・万願寺・上田
川辺堀之内・日野・宮・石田（浅川北）・石田１、２丁目

■とよだ圏域
豊田・東豊田・多摩平・富士町・旭が丘２、５、６丁目、大坂上
日野台４、５丁目

■たかはた圏域
高幡・新井・三沢・落川・程久保・百草・石田（浅川南）

■ひらやま圏域
南平・東平山・西平山・平山・旭が丘１、３、４丁目

2）活動実績

①会員数およびサービス利用者・活動者数

	利用会員		協力会員	
	会員数	利用者数（月平均）	会員数	活動者数（月平均）
30 年度	488 人	152 人	158 人	71 人
29 年度	472 人	168 人	151 人	79 人

※月平均は小数点以下四捨五入。

②延べ利用時間と延べ利用件数

	利用時間	利用件数
30 年度	8,775.5 時間	5,752 件
29 年度	10,095　時間	6,414 件

③サービス内容

	家事援助	身の回りの世話	外出の付き添い	その他
30 年度	1,700 件	287 件	339 件	198 件
29 年度	1,883 件	171 件	319 件	214 件

事業効果・評価方向性等

・協力会員数、利用会員数ともに微増したが、利用時間および利用件数が大幅に減少した。30 年度より利用料と活動費を変更したこと、介護予防・日常生活支援総合事業が本格実施されたことなどの影響が考えられる。
・通院等の外出付添の活動へのニーズが高まっている。
・利用会員本人の暮らしへの希望に応えるサービス方法が利用会員や自身だけでなくケアマネジャー等の支援者からも好評を得ている。家事援助などの活動と併せて行っている見守りや話し相手の活動が増えた。

事業内容

２．協力会員（市民の協力者）の活動支援

具体的内容

１）協力会員研修会

開催日	内容	参加者
8/21午後	調理実習「和食のプロから学ぶ」	11人
11/3全日	介護実技	1人
11/17全日	介護実技	3人

２）入会時研修

新規入会の協力会員を対象に、心構えや活動書類の書き方、掃除の方法などについて研修を行った。

開催日	場所	参加者
11/13 午前	中央福祉センター	9 人

３）協力会員意見交換会

協力会員同士の意見交換の機会と交流を図ることを目的に計画したが、申込者少数のため中止とした。

事業効果・評価方向性等

・現在活動している協力会員が充実した活動ができるよう研修、意見交換会等を引き続き企画していく。
・入会時研修を通じて、新規入会した協力会員同士が交流でき、顔のつながる関係の第一歩が築けた。
・協力会員意見交換会は、協力会員がお互いの活動から学び合える貴重な機会ともなることから、次年度は開催時期を検討しながら開催していく。

事業内容	３．地域での支えあいの仕組みづくり

具体的内容

1）クラブ活動

将棋クラブ：定期活動（第４金）と自主練習日（第２火）を設け、駒を並べるところからお互いに教え合い、聞きながらの活動を行っている。

英会話クラブ：現役時代の経験を活かして、利用会員が講師となり、月に１回実用英会話の講習会を行っている。

料理クラブ：利用会員・協力会員それぞれが意見を出し合い、毎回メニューを決めることから始まり、楽においしくできる料理を教え合う場となっている。

2）おしゃべりサロン

利用会員と協力会員の会員相互の交流の場としてサロン活動を開催した。

開催日	内容	参加者
5/25	扇子づくり	6人
6/21	あじさい園見学	18人
7/31	靴の履き方・選び方	21人
8/30	水害から命を守るために	19人
9/21	映画会「折り梅」	17人
10/10	映画会「ペコロスの母に会いに行く」	6人
10/26	詐欺にあわないために	9人
11/30	絵手紙カレンダーづくり	11人
12/14	観葉植物の寄せ植え	20人
2/28	映画会「人生フルーツ」	20人
3/27	膝の痛み解消法	29人

3）はつらつ体操

毎月１回、楽しく気軽に介護予防になる体操教室（利用・協力会員向け）を開催。

講師：木村明美　氏（介護予防指導士）

開催日	出席者	開催日	出席者	開催日	出席者
4/27	17人	5/25	16人	6/15	19人
7/27	17人	8/24	18人	9/28	17人
10/26	18人	11/30	14人	12/21	20人
1/25	19人	2/22	18人	3/22	14人

4）会報誌「ねっとわーく」の発行

毎月１０日に約６３０部を会員向けに発行。事業や地域に関する情報を提供し、協力会員および利用会員の暮らしや活動の充実を促す。

5）会員交流会

ケアサービス利用・協力会員相互の交流事業の開催。

開催日	内容	参加者
11/6	バスハイク「横浜中華街、横浜港ｸﾙｰｼﾞﾝｸﾞ」	45人
1/30	新年会「ホテル雅叙園東京百段雛まつり2019」	29人

<table>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・クラブ活動では、将棋クラブが自主練習に取り組んだり、料理クラブがおしゃべりサロンのお茶菓子づくりに協力いただくなど、活動の発展が見られた。
・おしゃべりサロンでは、協力会員の特技や地域の社会資源を活かしながら、工作、寄せ植え、防犯・防災、映画上映など様々なテーマで開催し、これまで参加がなかった会員を含め参加者の幅を広げることができた。
・はつらつ体操は昨年度と比べて参加者が年間10人ほど増え、気軽に参加できる交流や情報交換の場として活用された。
・会員交流会は昨年度より参加者が増えたが、ここ数年参加者の平均年齢が高まっていることから安全対策も重視していく。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>4．協力会員募集の強化</td></tr>
<tr><td>具体的内容</td><td>社協だよりおよび広報ひの、チラシ等を活用して新規の協力会員募集のための事業説明会を行った。

1）事業説明会
<table>
<tr><th>開催日</th><th>場　所</th><th>参加者</th></tr>
<tr><td>6/27</td><td>福祉支援センター</td><td>1人</td></tr>
<tr><td>7/19</td><td>中央福祉センター</td><td>3人</td></tr>
<tr><td>7/24</td><td>多摩平の森ふれあい館</td><td>5人</td></tr>
<tr><td>9/20</td><td>多摩平の森ふれあい館</td><td>6人</td></tr>
<tr><td>9/21</td><td>福祉支援センター</td><td>4人</td></tr>
<tr><td>9/25</td><td>中央福祉センター</td><td>3人</td></tr>
<tr><td>10/3</td><td>福祉支援センター</td><td>4人</td></tr>
<tr><td>2/19</td><td>中央福祉センター</td><td>2人</td></tr>
<tr><td>2/25</td><td>福祉支援センター</td><td>3人</td></tr>
<tr><td>3/27</td><td>多摩平の森ふれあい館</td><td>5人</td></tr>
</table>
2）入会者数　27人（うち活動者数　15人）</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・事業説明会の開催回数を増やすことで、協力会員の入会が増えた。
・新規入会した協力会員や現在活動していない協力会員ができるだけ早く活動につながるよう調整していく。
・これまで活動を支えていた協力会員の退会や活動休止というケースが出てきていることから、若い世代などが協力会員に入会しやすいような呼びかけを検討していく。</td></tr>
</table>

事　業　名	**第１号訪問事業生活援助型（新規）**
事業形態	介護保険事業（日野市）
財源内訳	利用料、介護保険事業収入
担当係	在宅サービス係
地域福祉活動計画における視点	ともにみまもる
目　　的	高齢者が住み慣れた自宅でいつまでも安心して暮らせるよう、ヘルパーが訪問して高齢者自身の自らの能力を最大限に活かしながら生活援助を行うことで、要介護状態にならないように予防することを目指す。
事業内容	**１．要支援認定者および事業対象者への生活援助**

実績報告

平成28年４月より開始した日野市介護予防・日常生活支援総合事業において、要支援１・２の認定もしくは地域包括支援センターが実施する基本チェックリストで事業対象となった方を対象に、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等が作成する介護予防ケアプランに基づいて、あらかじめ登録したヘルパーによる掃除・洗濯・買い物・食事づくり等の生活援助を行った。

１）実績

	新規契約	利用者数	利用時間	終了（解約）
４月	1	0	0	0
５月	1	1	3	1
６月	0	1	4	0
７月	2	3	19	0
８月	2	4	21	0
９月	0	5	28	0
10月	0	5	29	0
11月	1	6	33	0
12月	1	6	32	0
１月	3	9	41	0
２月	0	10	47	0
３月	0	10	43	0
合計	11	60	300	1

２）利用者管理台帳（データベース）の改修

在宅高齢者ケアサービス事業、高齢者食事宅配サービス事業と一体的に利用者情報が管理できるようデータベースの改修を行った。

事業内容	**２．日常生活圏域ごとの相談員配置**
実績報告	日野市介護保険事業計画における４つの日常生活圏域（ひの・とよだ・たかはた・ひらやま）ごとに地域担当相談員（職員）を配置。利用者やその家族からの相談に応じ、関係機関等との調整を行う。
事業効果・評価方向性等	・４月から事業開始し、当初想定していた以上の利用者数となった。サービス内容の範囲は生活援助のみのため限られてはいるが、利用者から生活意欲が高まったという声を複数いただくことができた。

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td>移送サービス（日野ハンディキャブ）事業</td></tr>
<tr><td>事業形態</td><td>補助事業（日野市）</td></tr>
<tr><td>財源内訳</td><td>補助金、利用料</td></tr>
<tr><td>担当係</td><td>地域支援係</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画における視点</td><td>ともにみまもる</td></tr>
<tr><td>目　　的</td><td>公共交通機関での移動が困難な市内在住•在宅の高齢者や障害者が気軽に外出できるよう、福祉車両を使い外出支援を行う。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>１．在宅高齢者や障害者の外出支援</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>日野市有償福祉運送運営協議会の協議を経て、国土交通省に登録し、有償旅客運送を実施。車椅子対応リフト付きワゴン車（福祉車両）で、市内在住の移動困難となった高齢者や障害者を、運転ボランティアが自宅から目的地まで移送。
要件を満たす登録者（市民税非課税で要介護３・４・５または下肢か体幹機能障害の障害者手帳１級か２級所持）が利用した場合、利用料金の一部を日野市が補助。
１）実績
<table>
<tr><td></td><td>車両</td><td>運転
ボランティア</td><td>利用
登録者</td><td>利用件数</td><td>走行距離</td></tr>
<tr><td>30 年度</td><td>8 台</td><td>20 人</td><td>391 人</td><td>2,930 件</td><td>30,757 km</td></tr>
<tr><td>29 年度</td><td>8 台</td><td>20 人</td><td>368 人</td><td>2,981 件</td><td>29,492 km</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業効果・評価方向性等</td><td>•移動困難者に対して有効な事業であり、市内でも最大規模で運行し利用者や福祉関係者から支持を得ている。
・事業に携わる事務量が多く、効率化や改善を図っていく。
•運転ボランティアの引退や走行距離が再び増加しているので、引き続きひの社協だより等を通じてボランティア募集に努める。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>２．見守り体制の強化・連携</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>１）運転協力者連絡会　毎月開催
実際に利用者支援を行う運転協力者と情報共有を図り、よりよい利用者支援を目指した。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>３．相談支援</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>日野市の４つの生活圏域（ひの・とよだ・ひらやま・たかはた）に合わせて職員を配置し、利用希望者に対し当該地区の担当者が訪問し事業の説明•申請受付をしている。また訪問時、当事業以外の事案についても相談、他事業の紹介等も行っている。</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価方向性等</td><td>•当事業が利用できる方には担当ケアマネージャー等の支援者がいるが、支援者の知らないインフォーマルサービス等の情報提供をしていく。
・福祉関連職の方に当事業の内容を理解、周知をすすめる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>事業内容</td><td>４．安全管理（運転協力者への講習義務付け）</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>１）福祉有償運送運転者講習・セダン等運転者講習
新規に加入した運転ボランティアが、東京ハンディキャブ協会の主催する講習会に参加。
<table>
<tr><td>開催日</td><td>場所</td><td>参加者</td></tr>
<tr><td>4/21-22</td><td>世田谷ﾊﾝﾃﾞｨｷｬﾌﾞ区民の会</td><td>１人</td></tr>
<tr><td>8/25-26</td><td>中央福祉センター</td><td>１人</td></tr>
</table>
２）患者等搬送乗務員講習・再講習
運転ボランティアが利用者の状態の理解と緊急時の適切な対応ができるよう、東京防災救急協会が主催する講習会に参加。
<table>
<tr><td>開催日</td><td>内容</td><td>場所</td><td>参加者</td></tr>
<tr><td>4/26,7/12
9/18,10/9
12/11,2/21</td><td>再講習</td><td>麹町消防署</td><td>８人</td></tr>
</table>
３）安全運転者講習会
日野警察署から署員を講師として招き実施した。
開催日　3/5(火)</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・平日に毎日運行があり、事故に関しては細心の注意が必要である。講習はドライバー自身の振り返りも含め、継続していく必要がある。
・運行管理においても時間的に無理のないスケジュールを組む。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>５．関係機関との情報共有・連携強化</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>１）日野市有償福祉運送運営協議会
道路運送法による登録の更新を行うため、市が主催し地域の関係者がその運送の必要性を協議する会議に出席。
開催日　1/22（火）
場　所　日野市役所　101 会議室</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・年に一度の運営協議会なので、情報共有や連携が難しい。
・行政側も運営協議会は福祉政策課、補助金請求は高齢福祉課と分担されているため情報共有や連携が難しい。利用者支援には行政との連携は必要不可欠であるため、どのような連携が図れるのか検討する。</td></tr>
</table>

事　業　名	**高齢者食事宅配サービス事業**
事業形態	受託事業（日野市）、自主事業
財源内訳	受託金、歳末たすけあい募金配分金
担当係	在宅サービス係
地域福祉活動計画における視点	ともにみまもる
目　　的	地域で孤立しがちな独居や日中独居の在宅高齢者等を対象に、栄養管理した昼食を提供することにより、食の確保や健康状態の維持を支援する。 また、配達時に利用者へ直接手渡すことで見守り・安否確認を行う。

<table>
<tr><td>事業内容</td><td>１．在宅高齢者への栄養管理した昼食の提供</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>１）新規申込者数
<table>
<tr><td></td><td>申込者数</td><td>内訳</td></tr>
<tr><td>30年度</td><td>163人</td><td>ひとり暮らし：82件　高齢者世帯：57件
日中ひとり：　13件　その他：　11件</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>129人</td><td>ひとり暮らし：80件　高齢者世帯：40件
日中ひとり：　7件　その他：　2件</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>２．利用者の見守り・安否確認</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>１）配食業務委託事業者　5事業所
①(社福) マザアス　②(社福) 隆山會　③(社福) 夢ふうせん
④㈱ベルハート・エール　⑤NPO法人福祉カフェテリア

２）実績
<table>
<tr><td></td><td>利用者数</td><td>配食数</td><td>内訳</td></tr>
<tr><td>30年度</td><td>3,646人</td><td>56,091食</td><td>①20,207食　②7,655食
③ 6,965食　④4,587食
⑤16,677食</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>3,409人</td><td>54,029食</td><td>①19,747食　②7,438食
③ 7,005食　④3,812食
⑤16,027食</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>３．安定したサービス体制の確保</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>１）情報交換会（新規）　１回（6/12）
事業者・市・社協の三者による情報交換会を実施。各事業所での取組みの情報共有や事業運営に関する確認等を行った。

２）事業所訪問
配食業者から調理や配達の工程等について説明を受けた。
<table>
<tr><td>実施日</td><td>見学先</td></tr>
<tr><td>7/12</td><td>夢ふうせん、福祉カフェテリア</td></tr>
<tr><td>7/13</td><td>ベルハート・エール、隆山會、マザアス</td></tr>
</table>
３）利用者管理台帳（データベース）の改修
在宅高齢者ケアサービス事業、第１号訪問事業生活援助型と一体的に利用者情報が管理できるようデータベースの改修を行った。

４）利用者情報の更新
利用休止中の利用者について追跡調査を行い、今後の利用継続の有無について確認を行った。　対象４０７人　利用継続１８０人　利用終了３３人</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・家族や支援者からの相談が入り、在宅で暮らす高齢者の食の確保ならびに安否確認（見守り）の事業として期待されている。
・配達時に不在だったケースや体調不良だったケースが出てきているため、安否確認の体制や手順を見直していく。
・利用者が増える一方、配食事業者は28年度に１者が撤退後に増えていないため、利用条件の整備や新たな配食事業者の追加等について市と協議を進めていく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td>車椅子貸出事業</td></tr>
<tr><td>事業形態</td><td>独自事業</td></tr>
<tr><td>財源内訳</td><td>利用料</td></tr>
<tr><td>担当係</td><td>総務係</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画における視点</td><td>ともにみまもる</td></tr>
<tr><td>目　　的</td><td>高齢、障害、怪我等で歩行が困難な方に短期間の車椅子の貸出を行う。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>１．利用状況の把握、在庫管理</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>1）市内在住の高齢者や障害者、傷病等による歩行困難者を対象に、一時的に車椅子を貸出。
<table>
<tr><td></td><td>貸出件数</td></tr>
<tr><td>30年度</td><td>218件</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>224件</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業効果・評価方向性等</td><td>・市民の方に広く浸透している社協サービスの一つである。
・貸出を行っている日野事務所及び高幡事務所の在庫管理及び点検を徹底し、市民の方が貸出を希望する際、車椅子が不足しているといった状況が無いよう工夫した。
・貸出件数は減少したものの、問合わせは増加傾向にある。
・車いすの劣化の影響か近年修繕費用が増加傾向にある。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td>コミュニケーション支援事業</td></tr>
<tr><td>事業形態</td><td>補助事業（日野市）</td></tr>
<tr><td>財源内訳</td><td>補助金</td></tr>
<tr><td>担当係</td><td>総務係</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画における視点</td><td>ともにみまもる</td></tr>
<tr><td>目　　的</td><td>聴覚障害者の情報保障やコミュニケーションの円滑化を図り、社会参加の機会向上のため、手話通訳者を派遣する。
聴覚障害者が地域で安心して暮らせるよう相談を受け、関係機関と連携して支援する。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>１．利用者支援</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>1）利用登録者
<table>
<tr><td></td><td>登録者数（うち新規契約者数）</td></tr>
<tr><td>30 年度</td><td>69 人（4 人）</td></tr>
<tr><td>29 年度</td><td>68 人（3 人）</td></tr>
</table>
2）手話通訳者
<table>
<tr><td></td><td>登録者数</td></tr>
<tr><td>30 年度</td><td>12 人</td></tr>
<tr><td>29 年度</td><td>13 人</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td>3）利用者懇談会
日時　6/16(土)　10：00～11：45
参加者　6人</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・窓口では通訳依頼に加えて、各種相談や支援を適宜行っている。専門的な内容の相談も多く、日野市役所に常駐している設置通訳者へ繋がるよう案内をしている。
・昨年の登録手話通訳者のうち3人が辞め、今年全国統一試験合格者の2人が登録したため、12 人となった。平日日中に活動できる通訳者が少ないため、特定の通訳者への負担が大きい状況になっている。通訳者の養成・確保が急務の課題である。
・利用者懇談会を土曜日に実施したが、平日に開催した昨年と比べて参加者数の変化はなかった。できるだけ多くの利用者が参加できるよう、日野市聴覚障害者協会と内容、開催日等を検討する。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>2．手話通訳者の派遣・調整</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>聴覚障害者に対して手話通訳者・要約筆記者を派遣し、当該聴覚障害者の日常生活を支援。

1）実績　（　）内は東京都手話通訳等派遣センター数
<table>
<tr><td></td><td>利用者数</td><td>利用件数</td><td>通訳者数</td><td>派遣回数</td></tr>
<tr><td>30年度</td><td>41人</td><td>407件　(84件)</td><td>12人</td><td>459回（142回）</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>46人</td><td>325件（109件）</td><td>13人</td><td>346回（148回）</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・障害者差別解消法が施行され、合理的配慮として市主催イベントに手話通訳者が配置されるようになったため、市からの通訳依頼が増加している。
・昨年に比べ利用者数は減少しているものの、特定の利用者による受診やサービスの申請、相談等の依頼が増加したため、利用件数及び派遣回数は増加傾向にある。
・定期的に東京手話通訳等派遣センターへの依頼があった方の利用回数が減少したことにより、昨年と比べてセンターへの依頼は減少した。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>3．登録手話通訳者の資質向上</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>1）新人研修
今年度新たに日野市登録手話通訳者として契約した2人に対して、日野市登録手話通訳者の会及び日野市聴覚障害者協会の協力を得て研修を行った。
<table>
<tr><td>開催日</td><td>内容</td></tr>
<tr><td>5/24</td><td>「オリエンテーション・読み取り練習」</td></tr>
<tr><td>6/14</td><td>「実習の振り返り、舞台通訳練習」</td></tr>
<tr><td>6/28</td><td>「手話通訳のあり方」</td></tr>
<tr><td>7/12</td><td>「場面通訳練習（保護者会・自治会・病院・予約）」</td></tr>
</table>
2）手話通訳士専門研修
日野市登録手話通訳者として活動している手話通訳者のうち、手話通訳士の資格を保有している2人が、より高度な専門的知識と技能の習得、聴覚障害者の福祉の向上に寄与することを目的に、手話通訳士専門研修に参加した。
日時　3/8-10　3日間
場所　国立障害者リハビリテーションセンター学院（埼玉県所沢市）</td></tr>
</table>

事業効果・評価 方向性等	・新人研修では、新人通訳者に実際の通訳現場のイメージをつかんでもらうことができた。今後は日野市登録手話通訳者の会、日野市聴覚障害者協会と共に研修内容を検討していき、より充実した研修を行っていきたい。 ・手話通訳士専門研修では、手話通訳士としての必要な知識と技能を理解し、専門分野についても的確に手話通訳できる技術等の習得を目的とした。聴覚障害者の更なる社会参加に寄与できるよう、これからもこのような研修への参加を促していきたい。
事業内容	**４．関係機関との連携**
実績報告	１）障害福祉課との打ち合わせ　２回（6/22、8/2） ２）日野市登録手話通訳者の会定例会への参加
事業効果・評価 方向性等	・よりよい利用者支援、登録手話通訳者の定着・育成等について、本事業の実施主体である障害福祉課と次年度に向け話し合いを行った。 ・特定の利用者に対する支援のため、地域包括支援センターと連携を図り必要なサービスに結び付くことができた。安心した地域生活を送ることができるよう今後も連携を図っていく。 ・突発的な派遣依頼が増加していることから、緊急の派遣対応を検討していく必要がある。

ボランティア活動推進事業

事　業　名	**日野市ボランティア・センター**
事業形態	独自事業
財源内訳	参加費、手数料、寄附金、歳末たすけあい募金配分金、繰入金
担当係	ボランティア係
地域福祉活動計画における視点	ともにつくる
目　　的	地域でボランティアを必要とする人と、地域に貢献したい人とをつなげるとともに、まちづくりを担う人材の育成・発掘を行う。また、多様な情報ネットワークを活用し、ボランティア情報の収集・発信を行う。
事業内容	**1．ボランティア相談・コーディネート**

実績報告

1）ボランティア企画調整部会
ボランティア窓口相談員から企画調整部会員として3人選出し、ボランティアセンター運営のための企画調整会議を毎月開催。

2）ボランティアセンター窓口相談
10時から15時の時間帯に「ボランティア窓口相談員（3人）」を配置し、市民参加によるボランティアに関する相談・調整を実施。

①ボランティア登録者・活動者数

	個人		団体	
	登録者	活動者	登録団体	活動団体
30年度	339人	延べ371人	71団体	延べ70団体
29年度	346人	延べ378人	71団体	延べ71団体

※活動者に昨年度から継続的に活動している人数は含まない。

②コーディネート結果

	ニード受付	成立
30年度	273件	219件
29年度	275件	215件

※活動者に昨年度から継続的に活動している人数は含まない。

③相談員連絡会
ボランティアセンターの事業検討、コーディネート状況の情報共有のため、連絡会を毎月開催。

④相談員の増員
窓口相談業務の充実のため、相談員公募し新たに5人の相談員を採用した。

3）ボランティアセンター相談受付システムの運用と改善
ボランティアコーディネートを効率的・効果的に行うための相談システムを試行的に運用し、改善を行った。

4）三菱UFJ銀行ＣＣＰ研修（コーポレート・シチズンシップ・プロジェクト）
三菱ＵＦＪ銀行新入社員を対象に、地域社会の中でボランティア活動を体験することで、社会の一員として人や社会に自分ができることを積極的に提供し

ていく姿勢を身につけてもらうための研修を、市内福祉施設等の協力を得て行った。

①ボランティア体験研修

日程	内容	場所
5/22	ボランティア体験研修①	対象施設※
5/23	振り返りと準備	三菱ＵＦＪ銀行研修会場
5/24	ボランティア体験研修②	対象施設※
5/25	振り返り	三菱ＵＦＪ銀行研修会場

※対象施設
つくしんぼ保育園、万願寺保育園、すずかけの家、東京光の家、七生福祉園、マザアス、浅川苑、工房夢ふうせん、にんじんホーム・万願寺

②三菱ＵＦＪ銀行ＣＣＰ研修地域説明会

日程	内容	場所
3/20	ＣＣＰ研修地域説明会	中央福祉センター

事業効果・評価方向性等

・平成 30 年度の登録者数および依頼件数は、前年度とほぼ同様であった。次年度は、更なる登録者数と依頼件数の増加をめざし、広報活動を行っていきたい。
・従来のエクセルでの情報管理から相談受付システムへの移行作業が少しずつ進んでいる。

事業内容

２．多様なネットワークの構築

実績報告

1）第16回　ボランティア交流会
地域で活躍するボランティア同士の情報交換と交流の場として年1回開催している。（会場　日野市市民の森ふれあいホール）

開催日	内容	参加者
3/9	・特別報告会 「豊田小学校の地域交流活動」 報告者　福原冬彦　先生 豊田小学校6年生のみなさん ・交流タイム ・お楽しみ抽選会 ・多摩療護園　和太鼓クラブによる和太鼓演奏	91 人

2）他団体との連携強化

①まちづくり市民フェア2018実行委員会キックオフイベント「みんなで考えようコミュニティーへの処方箋」
まちづくり市民フェア2018の前段としてのキックオフイベントを実行委員会有志により行った。
開催日　6/30
内　容　コミュニティーへの処方箋　　講師　西川正　氏
場　所　中央福祉センター
参加者　65人

②まちづくり市民フェア2018
実行委員として企画・運営を行った。
開催日　10/21

内　容　ブース展示
場　所　日野市市民の森ふれあいホール
来場者　1,900人

③「みんなの遊・友ランド」を通して障害児支援関係者との連携づくり

開催日	内容	場所	参加者
5/29	知的障害児、発達障害児、肢体不自由児の理解と接し方についての研修 講師：七生特別支援学校 八王子東特別支援学校	明星大学	45人
6/10	みんなの遊・友ランド	日野市市民の森 ふれあいホール	524人 （内ボランティア179人）
6/21	ボランティア交流会 みんなの遊・友ランドに関わったボランティア同士の交流会	明星大学	約20人

④日野宿通り周辺『賑わいのあるまちづくり』プロジェクト実行委員会への参加

●キョテン107運営
日野宿通り周辺『賑わいのあるまちづくり』プロジェクト実行委員会が行う地域活性の企画や人と人を繋ぐ役割を持つ地域の拠点として、毎日日替わりで担当者（ボランティア）が運営している。

●キャナルマーケットの開催
毎月、日野駅前広場で市内の店舗が出店することにより、楽しみながら市内の飲食店の紹介をするイベントを開催

⑤旭が丘小学校学校支援ボランティアとの連携

開催日	内容	参加者
8/24	旭が丘小学校サマースクールでのサバイバルごはん作り	子ども150人 スタッフ40人

⑥ご近所会議
公民館、ひの児童館、日野市ボランティア・センター、日野図書館による連携会議

開催日	内容	場所
5/25	情報共有	中央公民館
6/22	情報共有、ゆるカフェ企画	
7/24	七夕企画のふりかえり、おむすびキッチン企画	
8/29	情報共有、ゆるカフェ企画	
10/4	情報共有、ハロウィン企画	
11/30	情報共有、ゆるカフェ企画	
1/9	情報共有、ゆるカフェ企画	
2/14	情報共有、ゆるカフェ企画	

⑦ゆるカフェ

開催日	内容	場所
4/18	すてきな音楽を楽しみましょう 出演　ピアノ演奏者　坂口翼 氏	中央公民館
7/5	高齢者のいろは　アートかるた 協力　実践女子大学　須賀ゼミ	
7/25	虫虫パラダイス	
9/12	琉球の風　三線ライブ 出演　松島親子	
10/24	ハロウィンイベント	
12/5	ロボットが公民館にやってくる	
12/13	クリスマスゴスペル 出演　実践女子大学ＪＡＣ	
1/31	お話と映像でたどる日野のちょっと昔 協力　日野宿発見隊	
2/26	琴の演奏 出演　中田大梧 氏	

3）大学との連携強化

①大学生ボランティア活動報告会＆イベント2019
被災地と多摩地域の架け橋～大学生はなぜ、被災地に通い続けるのか？～

開催日	内容	参加者
2/6-10	2/6-10　被災地での活動パネル展示 2/9 ・被災地物産展 ・防災を学ぶ（防災人間すごろく、防災百人一首、イザ！カエルキャラバン！、アロマキャンドル作り） 2/10　PR動画上映会 「私たちが被災地に通い続ける理由」 第１部　動画による活動報告 第２部　トークセッション ※被災地からのライブ中継 主催　多摩地区の大学と地域によるネットワーク（ボラネット多摩） 協力　中央大学、明星大学、実践女子大学、首都大学東京、法政大学、イオンモール多摩平の森、日野市、日野市社会福祉協議会、東京ボランティア・市民活動センター	640人

②多摩地区の大学と地域によるネットワーク（ボラネット多摩）

開催日	内容	参加者
6/12	大学生のボランティア活動発表とパネル展示について	実践女子大学、明星大学 中央大学、首都大学東京 法政大学、地域協働課、 日野市ボランティア・センター
7/4		

③首都大学東京ボランティアセンタースポーツボランティア事前学習

開催日	内容	参加者
7/14	みんなといっしょの運動会の紹介	25人

④地域発見！公務員と巡る五感で感じるバスツアー（中央大学）
企画運営協力

開催日	内容	場所	参加者
6/9	地域課題とその解決策を実践されている地域リーダーのお話を聞く	せせらぎ農園こどもへのまなざし	10人
6/24	地域課題とその解決策を実践されている地域リーダーのお話を聞く	落川交流ｾﾝﾀｰ七ツ塚ﾌｧｰﾏｰｽﾞｾﾝﾀｰ	11人

4）ＮＰＯ法人フードバンクＴＡＭＡとの取組み
第３回シンポジウムの実施
開催日　6/9
テーマ　「なんとかしたい子どもの貧困」
講　師　湯浅誠　氏（法政大学教授）
近藤博子　氏（気まぐれハ百屋だんだん子ども食堂代表）
青木真一郎　氏（日野市セーフティネットコールセンター長）
場　所　イオンホール
参加者　155人

事業効果・評価方向性等

・障害の有無に関わらず子どもたちが風船遊びを楽しむ「みんなの遊・友ランド」は、大学生を中心とした約180人のボランティアにとって、ボランティアを始める第一歩や、ボランティア同士の交流の機会となっている。
・ご近所会議（公民館、ひの児童館、日野市ボランティア・センター、日野図書館による連携会議）では、情報交換と公民館の活用方法について話し合うことにより、隣接する施設同士の情報交換と共有の場となった。
・大学生ボランティア活動報告会＆イベント2019では、「私たちが被災地に通い続ける理由」と題し、これまで被災地支援活動を行ってきた学生ボランティアグループが自分たちの活動をふり返る場をつくった。これにより、自分たちの活動の総括をすると共に、被災された地域の方へのインタビューをすることにより、自分たちの活動の評価にもつながった。新たな取り組みとして、被災された地域とオンラインでシンポジウムに出演をしてもらい、被災地の今と学生へのメッセージをもらった。。
・中央大学ボランティアセンター主催の「地域発見！公務員と巡る五感で感じるバスツアー」では、公務員を目指す学生に対して、日野市内の市民活動団体を見学や体験し、その後関心のある団体にボランティア活動をする機会をつくった。その後、各施設や団体に学生が積極的に参加し、また事業に参画している。
・昨年度、協定を結んだＮＰＯ法人フードバンクＴＡＭＡと共に子どもの貧困に関してのシンポジウムを開催し多くの参加者が来場された。子どもの貧困問題に関しての関心の高さを感じられた。

事業内容

３．ボランティア情報の発信

実績報告

1）情報紙「ボランティアⓘインフォメーション」の発行（毎月１回）
各号4,000部発行

	2）フェイスブックの運営 イベント開催時等で随時更新 3）配布ボランティア感謝の集い 配布ボランティアに一年間のお礼を兼ねた交流会を開催した。 開催日　11/29 会　場　日野宿交流館 参加者　20人
事業効果・評価方向性等	・ボランティアⓘインフォメーションは、より多くの人が関心を持てる内容と市民活動団体や福祉関係者との連携強化を目的に毎月各団体に取材を実施し掲載を行っている。 ・フェイスブックの運営は、イベント告知や報告を行うと共により新鮮な情報を素早く掲載できるよう実施した。
事業内容	**4．福祉体験講座**
実績報告	体験や当事者の講演を通して、福祉や障害のある方について学ぶ機会を提供することを目的に、福祉施設職員、ボランティア等と共に講座を実施。

開催日	内容	場所	対象者
4/1	スプリングフェスタにおける車いす体験	中央公園	周辺住民 約100人
6/14	車いす体験	明星大学	大学生 約50人
7/9	車いす、 ブラインドウォーク体験 講師　山田彰一 氏	七生特別支援学校	高等部3年生28人
9/9	車いす体験 講師　山田彰一 氏	五小防災会	自治会員 約20人
9/20	車いす、 ブラインドウォーク体験 講師　山田彰一 氏 河野泰弘 氏	日野第七小学校	4年生100人
10/15	車いす、 ブラインドウォーク体験 講師　山田彰一 氏 河野泰弘 氏	潤徳小学校	4年生105人
10/17	車いす、 ブラインドウォーク体験 講師　山田彰一 氏 田辺邦夫 氏	旭が丘小学校	4年生103人
10/19	車いす、 ブラインドウォーク体験 講師　山田彰一 氏 河野泰弘 氏	第八小学校	3年生113人
10/23	車いす体験 講師　山田彰一 氏	第四小学校	6年生124人
11/5	ブラインドウォーク体験	七生緑小学校	4年生76人
11/7	視覚障害のある方とお買い物体験	豊田小学校	4年生6人

	協力　河野泰弘 氏		
11/27	車いす、 ブラインドウォーク体験 講師　宮野谷義傑 氏 　　河野泰弘 氏	七生中学校	3年生170人
1/18	車いす体験 講師　宮野谷義傑 氏	南平小学校	6年生84人
1/23	ブラインドウォーク体験 講師　河野泰弘 氏	南平小学校	5年生87人
1/28	車いす、 ブラインドウォーク体験 講師　宮野谷義傑 氏 　　河野泰弘 氏	第五小学校	4年生115人
2/20	車いす体験 講師　山田彰一 氏	滝合小学校	4年生 68人
3/11	車いす、 ブラインドウォーク体験 講師　宮野谷義傑 氏	大坂上中学校	3年生150人
3/30 ～31	車いす・電動車いす体験 協力　車椅子工房 輪	中央公園	125人

事業効果・評価方向性等	今年度は、環境緑化協会の依頼を受けてスプリングフェスタ内で車椅子体験を行った。多くの一般市民に関心を持っていただく機会となった。
事業内容	**5．ボランティア講座**

実績報告

1）日野傾聴ボランティア「りっすん」の活動支援

傾聴ボランティア養成講座の受講者を対象に傾聴ボランティア同士の横の連携や、多面的な活動を展開していくことを目指し支援を行った。

①情報交換会　6回開催（奇数月第3木曜日）

傾聴活動の情報交換を目的に、情報交換会を実施。

開催日	内容
5/17	・傾聴活動における困りごとや関心事の共有 ・今年度の勉強会のアイデア出し
7/19	勉強会 「特別養護老人ホームの職員に聞いてみよう」 講師　特別養護老人ホーム豊かな里　介護部主任　保坂真吾　氏
9/20	勉強会 「富山型デイサービスから学ぶ寄り添い（ＤＶＤ鑑賞）」
11/15	勉強会 「苦しみ悲しみを抱えた人に寄り添い傾聴する」 講師　介護老人保健施設ロベリア　看護長　宮本芳恵　氏
1/17	勉強会　11/15（木）の勉強会のふりかえり 「特別なんかじゃないんだよ-全盲ママの子育て-動画上映」
3/22	認知症サポーター養成講座 講師　地域包括支援センターすずらん

②傾聴ボランティア入門講座

「聴くこと（傾聴）」の意味、大切さを理解し、実践していくためのボランティア講座を開催した。

開催日	内容	参加者
2/1	・傾聴の基本 ・これからの活動に際して心がけたい事 講師　NPO法人P.L.A専任講師 黒田敏郎 氏、松尾隆義 氏	23人
2/8,15	・高齢者の理解 ・認知症の理解と適切な関わり方 講師　介護老人保健施設ロベリア　看護長 宮本芳恵 氏	
2/22	・うつ病の理解と適切な関わり方 講師　日野市民たんぽぽの会 乙訓博文 氏	
3/1	施設見学会	

事業効果・評価方向性等	・今年度の傾聴ボランティア入門講座は、募集対象を従来の「傾聴に興味のある人」から「実際に傾聴ボランティア活動を行ってみたい人」に限定したところ、より意欲の高い参加者が集まり、講座終了後にスムーズに活動につなげることができた。
事業内容	**６．夏の体験ボランティア**

実績報告

小学生以上の学生および一般の方を対象とした、夏休み期間中のボランティア体験学習を実施した。

①実績

	期間	活動先	参加者
30年度	7/20-8/31	78施設・団体	500人
29年度	7/20-8/31	68施設・団体	439人

②説明会

開催日	場所	施設	参加者	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ
7/7	日野第一中学校　食堂	61団体	88人	7人

③日野市ボランティア・センター企画プログラム

開催日	内容	参加者
8/1,3,8	子どもマジック☆ボランティア 講師　日野マジッククラブ	10人
7/28,29	ナバホ織をつくってみよう 講師　ハンドメイドラバーズ	7人
8/20	点字のメニューをつくってみよう！ 講師　西田梓　氏	13人
7/22	竹で炊ける！サバイバルごはん 講師　日野市社会福祉協議会　児童部会	16人

④地域団体での夏ボラ説明会

開催日	場所	参加者
6/13	日野台高校	約 320人
6/15	八王子東高等学校	約 60人
7/3	実践女子大学　生活文化学科保育・心理専攻	約 100人

事業効果・評価	・夏の体験ボランティアの参加者は年々増加している（2015 年 217 人→2016

方向性等	年 353 人→2017 年 439 人→2018 年 500 人)。その理由としては、都立高校において「人間と社会」の授業が導入され、学校単位での参加が増えていることが挙げられる。反面、ボランティアに対する積極的な意欲を持たないまま参加する学生も増えており、参加者の意識やマナーの向上が課題となっている。

<table>
<tr><td>事業内容</td><td>7．まちづくり人プロジェクト委員会（新規）</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>ボランティア・市民活動を推進する事により、市民の一人ひとりが、くらしや生活の課題を自分事として考え行動し、共に豊かな地域社会を築くことを目的とした委員会。

1）委員会メンバー（順不同敬称略）
理事から
渡戸一郎（明星大学名誉教授（専修大学兼任講師））
溝口常之（NPO法人ひの市民活動団体連絡会事務局長）
山田哲道（日野市民生・児童委員協議会会長）
その他
藤田博文　（CIL、障害者差別解消検討委員会委員長）
小川奈央　（NPO法人国際ボランティア学生協会IVUSA代表・中央大学学生）
藤浪里佳　（NPO法人子どもへのまなざし事務局長）
福原冬彦　（日野市立豊田小学校教諭）
佐藤新哉　（東京ボランティア・市民活動センター）
景谷弓子　（日野市ボランティア・センター窓口相談員）
浅沼俊熙　（日野市ボランティア・センター窓口相談員）
松本茂夫　（日野市ボランティア・センター長）
佐藤美千代（せせらぎ農園代表）
粟澤稚富美（日野社会教育センター）
惟住浩太郎（日野掃除に学ぶ会世話人）
福村真紀子（多文化ひろばあいあい代表）
嶽石翼　（LGBT+中高生支援団体すばる代表・明星大学学生）
熊澤修　（日野市地域協働課課長）

2）委員会の開催
<table><tr><th>日程</th><th>内容</th></tr><tr><td>4/24</td><td>自己紹介とプロジェクトの進め方について</td></tr><tr><td>7/13</td><td>地域課題等のブレインストーミング</td></tr><tr><td>10/12</td><td>活動方針の検討</td></tr><tr><td>2/5</td><td>活動方針・活動計画（案）について協議、次年度の進め方</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・本プロジェクトでは、ボランティア・市民活動を推進する事により、市民の一人ひとりが、くらしや生活の課題を自分事として考え行動し、共に豊かな地域社会を築くことを目的として活動を行う。平成30年度の委員会では、地域・社会・市民活動・ボランティア活動等の課題等を出し、委員会の方向性や次年度に向けた事業計画を決定することができた。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>事業内容</td><td>８．出前講座等</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>
１）大坂上中学校　道徳と総合での講演会
<table>
<tr><td>開催日</td><td>内容</td><td>対象者</td></tr>
<tr><td>6/4</td><td>様々な人との共生の心と行動力を育てていくために
講師　浅野大輔　氏（夢ふうせん）
宮崎雅也（日野市社会福祉協議会）</td><td>３年生
150人</td></tr>
<tr><td>6/7</td><td>逆境や試練を乗り越えていく心の持ち方と生き方とは
講師　菊地美由紀　氏（東京光の家）
藤田博文　氏（CIL）
山田彰一　氏（まち記者）</td><td>３年生
150人</td></tr>
</table>
２）七生中学校　道徳授業地区公開講座
<table>
<tr><td>開催日</td><td>内容</td><td>対象者</td></tr>
<tr><td>9/15</td><td>地域と共に生きる
講師　宮崎雅也（日野市社会福祉協議会）</td><td>全生徒</td></tr>
</table>
３）中央大学での講義
公務員を目指す学生を対象にゲストスピーカーとして講義を行った。
テーマ　公務員になりたい人のためのボランティア講座
<table>
<tr><td>開催日</td><td>場所</td><td>参加者</td></tr>
<tr><td>6/9</td><td>中央大学</td><td>55人</td></tr>
</table>
４）都立南平高校「奉仕」ＨＵＧ体験の支援
都立南平高校１年生を対象とした「人間と社会」の授業においてＨＵＧ（避難所運営ゲーム）を各クラスで実施するにあたり、防災減災活動に取組む大学生と共に支援を行った。
<table>
<tr><td>開催日</td><td>内容</td></tr>
<tr><td>6/22</td><td>生徒向け事前レクチャー</td></tr>
<tr><td>7/5</td><td>ＨＵＧの実施支援</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・大坂上中学校は３年生を対象に授業を行ったが、これから進路を決めていく過程で、地域の福祉について知ることや、地域に暮らす障害のある方からお話を聞き、社会に必要なこと、人の生き方について考える時間になった。
・七生中学校は、社会福祉協議会の地域福祉活動を通して、様々な方が地域を支えていることや、共生社会について学び、また中学生がまちの力になることを伝え、これからの地域社会の担い手であることを考えてもらった。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>事業内容</td><td>９．その他</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>
1）ボランティア保険取扱事業

①東京都社会福祉協議会ボランティア保険加入取扱
<table>
<tr><td></td><td colspan="2">団体</td><td>個人</td></tr>
<tr><td>30年度</td><td>382件</td><td>3,536人</td><td>571人</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>476件</td><td>3,767人</td><td>528人</td></tr>
</table>
②東京都社会福祉協議会行事保険加入取扱
<table>
<tr><td>30年度</td><td>104件</td><td>4,525人</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>105件</td><td>4,333人</td></tr>
</table>
2）研修会・関係会議・協力事業
・まちづくり市民フェア2018全体会　意見交換会
・子ども食堂連絡会
・七生中学校　道徳授業地区公開講座「より良く生きる」講師
・ボラネット多摩　会議
・ひの児童館・公民館・社協　ハロウィンイベント
・明星大学学生ボランティア活動報告会
・スポーツレクリエーションフェスティバル実行委員会
・八小まつり実行委員会
・日野宿通り周辺『賑わいのあるまちづくり』プロジェクト
・南多摩ブロックボランティア担当者会議
・日野市子どもの人権を守る協議会
・日野市地域居住循環型生涯活躍のまち推進協議会
・ボランタリーフォーラム2019実行委員会会議

3）誰でもすぐに参加できるボランティア活動（すぐボラ）

①使用済み切手・プリペイドカード、ペットボトルキャップの収集
協力件数　延べ484件

②軽作業ボランティア
何らかの課題を抱えた方が安心して活動出来るよう、本人に配慮したプログラムを提案し、ボランティア・センター内での活動を行った。
</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・市内の小学校での避難所運営マニュアルづくりに伴い、学校からの要望により会議に参加することが多くなった。</td></tr>
</table>

事　業　名	**防災・減災をテーマにした地域づくり**
事業形態	独自事業・受託事業（日野市）
財源内訳	参加費、手数料、寄附金、歳末たすけあい募金配分金、繰入金、受託金
担当係	ボランティア係
地域福祉活動計画における視点	ともにつくる
目　　的	「災害に強いまち＝地域のつながりが強いまち」をテーマに市民と関係機関と共に防災・減災活動に取組むことを目的とする。
事業内容	**１．みんなでつくる日野の防災プロジェクトの運営**

実績報告

災害に強い地域づくりのために必要なネットワークを形成することを目的に設置。災害ボランティアセンター運営訓練、防災(減災)学習プログラムの実施、ネットワークの構築を目標に、委員会形式でプロジェクトを推進。

1）みんなでつくる日野の防災プロジェクトの運営会議　1回

平成23年3月11日に発災した東日本大震災の翌年、平成24年度に災害ボランティアセンターの運営体制確立のため「みんなでつくる災害ボランティア・センタープロジェクト委員会」を発足した。平成26年度からは、より広い視点での防災減災活動を目指すため、「みんなでつくる日野の防災プロジェクト」と名称を変え、市民全体への防災減災活動の啓発に関して議論と市内自主防災組織へのヒアリング調査等を行い現在に至る。

開催日	内容
9/27	①日野市民でつくる防災・減災シンポジウム報告 ②吉川かおり委員から「障害者防災リーダー養成講座」の情報提供 ③浅野大輔委員から災害時情報共有シートの実施後について ④今後の取組について

2）災害時要配慮者への対策について

平成28年、本プロジェクトでは、障害のある当事者や家族、支援者等から大規模災害時に関するヒアリング調査を行い、「災害時の不安は多くあるものの自分でどう備えたらいいのか分からない」「行政からどのような支援を受けられるのか知らない」といった声が寄せられた。

そこで、本プロジェクトでは、ワーキンググループを構成し、知的障害の当事者や家族が、自らの備えや避難所運営者に本人の状態を伝える「災害時情報共有シート」を作成した。

今年度、防災減災セミナーとモデル事業として2カ所の施設で実施した。

開催日	場所	参加者
5/9	社会福祉法人夢ふうせん　工房夢ふうせん	26人
1/17	社会福祉法人日野青い鳥福祉会　あおいとり日野	16人

3）災害ボランティアセンター立上げ研修

大規模災害時に立ち上げ・運営を行う災害ボランティアセンターの研修を行った。日野市社会福祉法人ネットワークに参加を呼びかけ多くの法人関係者が参加した。

開催日　12/13
参加者　57人
会　場　中央福祉センター

	内　容　①近年の災害ボランティア事情について ②防災イエスノーゲーム 4）災害ボランティアセンター立上げ訓練in日野市医師会災害医療訓練 開催日　11/18 内　容　災害ボランティアセンター立上げ初期行動訓練 （福祉政策課との情報伝達等） 参加者　3人
事業効果・評価 方向性等	・「みんなでつくる日野の防災プロジェクト」は、地域の災害課題を調査し、その調査に基づき事業の創出を行っている。今年度は、災害時要配慮者の特に知的障害のある方や家族へのヒアリングから、災害時情報共有シートを作成し、社会福祉法人夢ふうせんと社会福祉法人日野青い鳥福祉会あおいとりでモデル実施を行った。 ・災害ボランティアセンター立上げ研修に日野市社会福祉法人ネットワークに参加を呼びかけたところ多くの参加者があった。福祉関係機関と地域の様々な関係者と共に開催することが出来た。

事業内容	**2．日野市民でつくる防災・減災シンポジウム**
実績報告	市内の自主防災組織に呼びかけ、自主防災組織の有志で実行委員会をつくり、地域で活動する中での課題をもとにシンポジウムを行った。 1）実行委員会　7回（4/26,5/31,6/14,6/28,7/12,7/26,8/27） ※第４分科会実行委員会のみ８回（臨時委員会を7/19に実施） 2）実行委員　36人 3）当日 日　時　8/5（日）13：00～17：00 会　場　実践女子大学　本館4階441教室 主　催　日野市民でつくる防災・減災シンポジウム実行委員会 共　催　日野市、みんなでつくる日野の防災プロジェクト 日野市内社会福祉法人ネットワーク 日野市社会福祉協議会、日野市ボランティア・センター 協　力　日野市障害者関係団体連絡協議会、日野市教育委員会 実践女子大学 参加者　171人 内　容

第1部	◯基調講演 「主役はわたしたち」～避難所からのコミュニティ形成～ 講　師：吉村静代　氏 （益城だいすきプロジェクト・きままに 代表） ※講師の吉村氏は、熊本地震時に益城中央小学校の避難所運営リーダーとして活躍した。 ◯日野市内全中学校の有志生徒による 被災地に学ぶ生きる力プロジェクト活動発表 発表者：栃澤紀香 さん（三沢中学校） 仲林まりな さん（三沢中学校）
第2部	第１分科会 「みんなが主役の避難所運営～誰もができる運営を目指して」 講師：立川智　氏（日野市総務部防災安全課） アドバイザー：吉村静代　氏（基調講演講師） 第２分科会 「自助共助～ひとりでいたらどうするの？～」 講師：宮﨑賢哉　氏(一般社団法人防災教育普及協会 事務局長) 第３分科会 「地域の災害時要配慮者とつながろう！～つながるために、今できること～」 事例発表： 渡辺みち子　氏（気にかけネットワーク） 松本久江　氏、田中美智子　氏（万願荘自治会防災会） 石渡健太郎　氏、平野吾一　氏（東京光の家） 第４分科会 「ゲリラ豪雨時における災害ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝと避難について」 講師：野村達夫　氏（株式会社ノムラ） 鈴木雅史　氏（国土交通省京浜河川事務所）

事業効果・評価方向性等	・「日野市民でつくる防災・減災シンポジウム」は、例年に続き関心が高く定員を超える参加者であった。日本国内でも大規模自然災害の発災が多く続いており、特に今年度は平成30年7月豪雨（西日本豪雨）の発災により、水害に関しての分科会の参加者が例年より大幅に増えた。来年度の実行委員会への参加に関心がある方が52人と例年を超える意思表明があった。
事業内容	**３．地域の防災・減災活動の支援**

実績報告

1）「イザ！カエルキャラバン！」の開催支援

ＮＰＯ法人プラス・アーツが企画した子どもと一緒に楽しみながら参加できる防災体験プログラム。開催する団体を支援することで、地域で暮らす市民同士の連携を深め、震災に強い地域づくりを目指す。

ワークショップや当日サポート等の支援を行う。

①実施セミナー

開催日	主催	参加者
6/20	三沢中育成会	13人
6/27	日野第六小学校ＰＴＡ	18人
6/30	日野第一小学校ダンディーkai	8人
11/4	三ツ井台自治会	8人

②「イザ！カエルキャラバン！」実施支援

開催日	主催	参加者
7/20	日野第六小学校ＰＴＡ（宿泊防災訓練内）	87人
7/21	泉塚自治会（五小まつり内）	330人
7/21	日野第一小学校　ダンディーkai	約60人
9/21	つくしんぼ保育園（園児対象）	約50人
10/20	滝合小学校	約100人
10/20	日野市総合防災訓練	約100人
11/25	三ツ井台自治会	20人

2）地域の防災減災に取組む団体への防災プログラムの実施・発表

地域防災減災をキーワードに地域の課題を顕在化し、日頃の地域福祉活動を考える機会とした。

①地域での避難所運営ゲーム（HUG）と災害図上訓練（DIG）実施

開催日	対象者	内容	参加者
5/26	平山苑自主防災会	ＨＵＧ実施	12人
6/21	六小防災会	ＨＵＧ事前説明	15人
6/22	南平高校１年生	ＨＵＧ事前説明	322人
7/5	南平高校１年生	ＨＵＧ実施	322人
10/18	三小避難所運営委員会	ＨＵＧ実施	21人
10/19	男女平等課 女性防災リーダー	ＨＵＧ実施	18人
10/19	平山小学校	ＨＵＧ実施	87人
12/11	七生緑小学校避難所運営委員会	ＨＵＧ実施	21人
12/17	七生中学校1年生	ＨＵＧ実施	人

12/20	南平高校1年生	ＨＵＧ実施	319人
3/2	ゆざわここからネット	ＤＩＧ実施	20人
3/10	ひまわりグループ	ＤＩＧ実施	50人
3/13	日野市民生委員児童委員協議会　高齢者部会	ＤＩＧ実施	20人

②防災減災活動の実施・発表

開催日	対象者	内容	参加者
8/17,18	七生中学校防災ＣＡＭＰ訓練参加者	防災プログラム実施 河野泰弘氏(視覚障害) 山田彰一氏(車椅子)とともに	約50人 (内中学生15人)
9/9	日野市障害者関係団体連絡協議会運営委員会	防災についての取組み発表	約20人
10/13	七生緑小 地域自主防災会訓練	防災プログラム実施	約40人
10/28	四小 地域自主防災会訓練	避難所運営訓練	約100人
11/11	下田自治会	水害ワークショップ	約50人
11/17	滝合小地区	地域防災訓練反省会	約20人
2/16	八小避難所運営準備会	全体訓練	約50人
2/26	防災研修　もし放課後地震が起こったら～防災・減災意識の大切さ～	中央大学「チーム防災」(クロスロード)	約50人
3/13	杉並区「災害ボランティアネットワーク」勉強会	日野の取組について(事例発表)	11人

3）各種会議への参加

- 七生中学校防災宿泊訓練実行委員会
- 四小防災会会議
- 八小避難所運営準備会会議
- 東光寺小学校避難所運営準備会会議
- 七生緑小学校防災会
- 滝合小学校地域防災会議
- 日野市総合防災訓練 関係者会議
- 三小避難所運営委員会会議
- 七小地域自主防災会会議
- 南多摩医療圏災害医療ワーキングトリアージ訓練

事業効果・評価方向性等	・市内の小学校での避難所運営マニュアルづくりに伴い、学校からの要望により会議に参加することが多くなった。

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td>日野市介護サポーター制度</td></tr>
<tr><td>事業形態</td><td>受託事業（日野市）</td></tr>
<tr><td>財源内訳</td><td>受託金</td></tr>
<tr><td>担当係</td><td>ボランティア係</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画における視点</td><td>ともにそだつ</td></tr>
<tr><td>目　　的</td><td>日野市在住の65歳以上の方を対象に、介護保険施設等でのボランティア活動を通じ、介護予防についての理解を深めていただくこと、積極的な社会参加や地域貢献を行うことにより、いつまでも元気な高齢者を目指して頂くことを目的とする。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>１．介護サポーター制度の運営・相談支援</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>日野市在住の65歳以上の方を対象に、介護保険施設等で市民として利用者に関わる活動を通じて、介護予防についての理解を深めるとともに、積極的な社会参加や地域貢献を行うことにより、いつまでも元気な高齢者を目指して実施した。

１）登録者及び施設数
<table>
<tr><td></td><td>登録者</td><td>受入施設</td></tr>
<tr><td>30年度</td><td>416人</td><td>58施設</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>410人</td><td>53施設</td></tr>
</table>

2）日野市地域包括支援センターが行う認知症サポーターステップアップ講座での制度説明
主　催：地域包括支援センターすずらん
開催日：10/24
場　所：新川辺地区センター
参加者：8人

3）介護サポーター制度の周知
ボランティアインフォメーション３月号掲載
ひの社協だより233号掲載

4）介護サポーター制度説明会
<table>
<tr><td>開催日</td><td>場所</td><td>相談者</td></tr>
<tr><td>3/29</td><td>中央福祉センター</td><td>3人</td></tr>
</table>

5）介護サポーター制度登録者向け研修
<table>
<tr><td>開催日</td><td>内容</td><td>参加者</td></tr>
<tr><td>3/26</td><td>歌って！健康体操
講師　能村昭子 氏（音楽療法士）</td><td>13人</td></tr>
<tr><td>3/29</td><td>自分で！リンパマッサージ
講師　木村一恵 氏（はり師・きゅう師）</td><td>9人</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価方向性等</td><td>・登録者に行ったアンケートの調査結果では、ボランティア活動を通して「友人が増えた」「利用者の笑顔に元気をもらった」「生活の幅が広がった」「自分自身が成長できた」という回答のほか、「活動の励みになるためポイント制度を継続してほしい」との意見が多数寄せられた。
・登録者は微増している。介護サポーター制度の登録者増加に向けて地域包括</td></tr>
</table>

	支援センターが行う認知症サポーターフォローアップ研修やボランティア団体の研修等で制度紹介を行った。

事　業　名	**日野市生涯学習支援システムポータルサイト「Hi Know!（ひのぅ）」**
事業形態	補助事業（日野市）
財源内訳	補助金
担当係	ボランティア係
地域福祉活動計画における視点	ともにそだつ
目　　的	市内のイベント、団体・サークル活動等を紹介するポータルサイトを展開し、“新たな発見”“人との出会い”“地域とのつながり”“夢の実現”等のきっかけづくりのため、様々な団体・グループ等とともに市民目線で情報提供を行う。
事業内容	**1．まちにくわわるポータルサイト「Hi Know!」の運営**

実績報告

「Hi know!」は、富士通研究所㈱が「日野市を社会参加しやすいまちにする」ことを目的に実施する社会貢献活動としてWEBサイトを開発。現在、日野市ボランティア・センターが日野市や関係事業者と連携し事務局を担当、平成27年度から日野市の補助事業となる。URL　http://www.hi-know.tokyo/

1）「Hi know!」閲覧数（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

	トップページ	団体毎ｱｸｾｽ数	ｲﾍﾞﾝﾄ毎ｱｸｾｽ件数	まち記者毎取材記参照数
30年度	35,440件	53,036件	71,801件	52,906件
29年度	437,190件	43,305件	58,334件	56,285件

※トップページ閲覧数の大幅な減少の要因としては、検索サイトによる自動閲覧が行われなくなったためと推測される。

2）登録団体数　220団体（平成30年度新規登録団体23団体）

3）まち記者

①登録者数　41人（平成30年度新規登録数3人）

②まち記者ミーティング　毎月開催

③まち記者養成講座
開催日　9/13
場　所　日野宿交流館
講　師　野村智子 氏（意外と遊べる日野マガジン編集長）
参加者　16人（中学生４人を含む）
新規まち記者登録者　４人

④まち記者ツアー

開催日	場所	内容	参加者
3/30	多摩平地域	まち記者お花見ツアー ※二中地区アクションプラン企画のお花見とパン屋巡りツアーに同行	６人

	4）広報 ・公民館・・・・　登録団体への周知 ・生涯学習課・・　サークル団体・施設ガイド登録団体への周知 ・ボランティアⓘインフォメーション　毎号4,000部 ・「まちづくり市民フェア」参加者・参加団体への周知（10/21）
事業効果・評価 方向性等	・Hi Know!トップページ閲覧数の大幅な減少は、大手検索サイトによる自動閲覧が終了したためと推測される。 ・団体／イベント／まち記者取材記アクセス数は増加傾向にある。 ・高齢福祉課の進める介護予防事業を推進する事を目的にHi　Know！で介護予防登録団体や、その団体が行う介護予防イベントが検索できるように改修した。それに伴い、介護予防登録団体の掲載登録を随時行っている。
事業内容	**2．まち記者の養成・活動支援**
実績報告	1）まち記者登録者数　44人（平成30年度新規登録者　4人） 2）まち記者ミーティング まち記者同士の定期的な情報交換の場として毎月開催。 3）まち記者　花より団子ツアー 開催日　4/7（土）13：00～15：00 場　所　南平駅～高幡不動駅 参加者　6人 内容　まち記者の交流と記事掲載 4）まち記者講座 開催日　9/13（木）10：00～16：00 場　所　日野宿交流館 講　師　野村智子 氏 参加者　16人（現役まち記者5人を含む） 新規まち記者登録者　4人
事業効果・評価 方向性等	・高齢福祉課と協働し介護予防事業を推進するため、介護予防登録団体の掲載登録を随時行っている。 ・まち記者講座では、職場体験の中学生や社会福祉士実習の大学生も参加し、幅広い年代での交流が生まれた。

事　業　名	**トップアスリート講演会及びスポーツボランティアセミナー**
事業形態	受託事業（日野市）
財源内訳	受託金
担当係	ボランティア係
地域福祉活動計画 における視点	ともにそだつ
目　　的	トップアスリートによる講演会又はトークショーを行い、スポーツへの関心度を高め、市のスポーツ振興並びに東京オリンピック・パラリンピックに向けて機運醸成を図る。また、スポーツボランティアセミナーを通し、市のスポーツイベントへの参加率の向上、ボランティアの人材育成・促進につなげる。

事業内容	**トップアスリート講演会及びスポーツボランティアセミナーの運営**
実績報告	1）目に見えない障がいに対する理解と、適切なコミュニケーションについてパラスポーツ等を題材に、講演・体験プログラム・グループワーク等を通して学んだ。障がいのある講師からサポートのポイントを教わったり、パラスポーツアスリートの競技や日常生活で感じる事の紹介等を受けた。併せて市内のボランティア募集についても紹介し関連資料も配布した。 講座名　あすチャレ！Academy 講　師　薄葉幸恵氏（あすチャレ！Academy 講師） 場　所　イオンモール多摩平の森イオンホール 参加者　24 人 2）あいおいニッセイ同和損害保険株式会社所属のパラアスリート２人に、障がいを抱えて感じたこと、自身にとってのパラスポーツや針灸・マッサージの仕事への思い、今後に向けての抱負等を話してもらった。併せて市内のボランティア情報などの関連資料も配布した。 講座名　パラアスリート講演会 講　師　石橋元気氏（視覚障がい柔道選手） 　　窪野一輝氏（パラ水泳選手） 場　所　日野市市民の森ふれあいホール 参加者　40 人
事業効果・評価方向性等	・両講座とも障がいを持つ講師よりお話しいただき、障がいへの理解を促し、障がいスポーツの意義を学べるものであった。 ・両講座とも障がい者スポーツ用品展示することで、来場者に興味をもって手に取ってもらえ、小学生の書く東京大会に期待することの絵、ロンドンパラリンピックの障がいパネルを展示した事により幅広い年代層にもパラリンピック、スポーツボランティアの啓発が出来た。 ・両講座とも手話通訳者を招いて講演会を実施した。両講座とも聴覚障がい者がいらしたので意志疎通や内容理解に役立った。

助成事業

事　業　名	**歳末たすけあい地域福祉活動助成**
事業形態	歳末たすけあい募金配分金事業
財源内訳	歳末たすけあい募金配分金
担当係	総務係
地域福祉活動計画における視点	ともにつくる
目　　的	歳末たすけあい募金を原資とした助成金を、障害者団体や当事者団体、ボランティアグループ等に交付し、地域福祉活動の推進を図る。
事業内容	**1．助成金申請受付・決定・交付・事業報告書の精査**

実績報告

歳末たすけあい地域福祉活動助成金は、申請した翌年度に助成金が交付される仕組みとなっている。

1）助成金申請数ならびに交付決定額

申請団体に対し、助成金の決定及び交付

平成30年度	19団体　1,256,000円
平成29年度	17団体　1,264,000円

（内訳）

	団体名	金額
1	日野市老人クラブ連合会	100,000円
2	日野市聴覚障害者協会	71,000円
3	朗読サークル「ひの」	55,000円
4	日野市赤十字奉仕団	100,000円
5	高次脳機能障害者と家族の会かしのきひの	63,000円
6	ひの手話サークル	71,000円
7	ボランティアグループ「こすもす」	100,000円
8	日野精神障害者家族会「日野いずみ会」	30,000円
9	日野市身体障害者福祉協会	60,000円
10	ACT	66,000円
11	日野市障害者関係団体連絡協議会	29,000円
12	市民サポートセンター日野	63,000円
13	ひの・I-BASYO	78,000円
14	家事・育児さぽーとHappy	64,000円
15	HINO飛ぶ教室	100,000円
16	緑を愛する会日野	47,000円
17	日野市視覚障害者協会	24,000円
18	日野失語症者交流会すずめ	80,000円
19	さと@hino	55,000円
	合計	1,256,000円

事業効果・評価方向性等	・本助成金の対象事業は、①研修・講演会事業②広報・啓発活動事業③調査・研究事業④備品整備事業の4事業である。助成金を交付した19団体のうち、①の活用団体が15団体②3団体④1団体となっており、自己財源力の乏しい障害者団体や当事者団体等が地域住民を対象とする講演会等開催の一助となっている。 ・本助成金は、前年度の歳末たすけあい募金実績額に対し今年度の助成金総額が決定する。前年度分の募金実績額が多かったため交付金額が増額した。
事業内容	**2．広報周知**
実績報告	ひの社協だよりやホームページ等を活用し、助成団体を周知することにより募金の使われ方を広く市民に示し、歳末たすけあい募金への理解の促進を図る。
事業効果・評価方向性等	・日野市内の自治会あてに、共同募金だより「ひの」（前年度の共同募金運動の報告）を郵送し、共同募金への理解促進を図った。

事　業　名	**地域支え合い福祉活動助成**
事業形態	独自事業
財源内訳	会費
担当係	地域支援係
地域福祉活動計画における視点	ともにつくる
目　　的	会費を原資とした助成金を、地域で当事者や住民同士の仲間づくり、情報交換といった居場所づくりを行っている地域交流サロン等の非営利団体及び「ぷらっと協議会」（地区社協）交付し、地域福祉活動の活性化を図る。
事業内容	**1．サロン活動助成**
実績報告	1）助成金決定・交付 申請団体に対し、助成金の決定及び交付

平成30年度	40団体　1,244,000円
平成29年度	41団体　1,343,000円

（内訳）

	団体名	金額
1	アンサンブル＊レェブ	3,000円
2	エプロン・ママ	20,000円
3	子育て支援グループ「かるがも」	30,000円
4	グループこの葉	30,000円
5	青春グループ	30,000円
6	多文化ひろばあいあい	30,000円
7	日野国際友好クラブ	21,000円
8	ホットやすらぎ会	30,000円
9	南新井ふれあいサロン協議会	30,000円
10	ふれあいサロン　「縁がわ」世話人会	30,000円
11	レモン倶楽部	30,000円
12	日野台さわやか会	30,000円
13	さざんかの会	30,000円

		14	大坂上百合の木会	30,000円	
		15	元気印健康クラブ	30,000円	
		16	歌で楽しむ元気会	30,000円	
		17	地域交流スペース「ひだまり」	30,000円	
		18	ふれあいあじさいサロン	30,000円	
		19	なつかしい歌の会	30,000円	
		20	三世代ふれあいの会	30,000円	
		21	緑ヶ丘自治会「談笑縁」	30,000円	
		22	日野台にこにこカフェ	30,000円	
		23	サロン程久保	30,000円	
		24	日野市パーキンソン病友の会	30,000円	
		25	日野おはなしの会	30,000円	
		26	特定非営利活動法人はっぴーらいふ	30,000円	
		27	ハッピーソング会	30,000円	
		28	落川元気会	30,000円	
		29	Shall we dance	30,000円	
		30	ふれあいサロン万願荘	30,000円	
		31	日野市訪問介護サービス提供責任者連絡会	30,000円	
		32	ふれあいサロン「こんね」	30,000円	
		33	黒川かわせみサロン	30,000円	
		34	元気な音楽の広場	30,000円	
		35	おしゃべりカフェ	30,000円	
		36	健幸サロン	50,000円	
		37	日野すみれ塾	50,000円	
		38	あさひ健幸体操	50,000円	
		39	明星地区つながりの家「アムール」	50,000円	
		40	平山ことな広場の会	40,000円	
			合計	1,244,000円	

事業効果・評価 方向性等	・地域住民の様々な居場所づくりに対して、関心が高まっており、サロン活動助成についての相談が増加しており、立ち上げの際に有効に活用されている。 ・介護予防活動団体からの相談や申請も上がってきており、今後検討が必要と思われる。
事業内容	**２．地区社協助成**
実績報告	南平地区社協　　150,000 円
事業効果・評価 方向性等	日野市内で初めて立ち上げられた南平地区社協に対して事業助成を引き続き行うことで、安定的な運営・活動が期待される。

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td>ヒカリ興業奨学基金</td></tr>
<tr><td>事業形態</td><td>受託事業（東京都社会福祉協議会）</td></tr>
<tr><td>財源内訳</td><td>寄附金</td></tr>
<tr><td>担当係</td><td>総務係</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画
における視点</td><td>ともにみまもる</td></tr>
<tr><td>目　　的</td><td>本奨学金は、平成17年度「ヒカリ興業㈱」からの寄付により基金を設立し、翌年度の入学者から給付開始したものである。平成23～24年度は募集停止。
平成25年度（翌年度の入学者）から募集再開した。当会は本奨学金の周知・受付を行い、教育資金の一助になるよう努めるものである。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>申請書類の受付・奨学生の決定</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>募集人数（都内）大学等　4人　高校等　4人
交付金額（年額）大学等　240,000円　高校等　150,000円
※いずれも所定就学期間のみ

1）実績
<table>
<tr><td></td><td>申請者</td><td>交付決定者</td></tr>
<tr><td>30年度</td><td>10人（大学5人、高校5人）</td><td>1人（大学）</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>5人（大学2人、高校3人）</td><td>1人（高校）</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・日野市立中学校及び日野市内所在の都立高校に募集要項を配布し、奨学生募集の周知及び協力を依頼し、多くの学生から申請があった。
・日野市セーフティネットコールセンター等の関係機関において本奨学金を周知し、必要な方へ周知することができた。
・奨学金募集時期に、広報ひのやひの社協だより等での周知の他に、関係機関への働きかけを行うことが重要であることが分かった。引き続き継続して行っていく。</td></tr>
</table>

生活福祉資金貸付事業

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td>生活福祉資金貸付事業</td></tr>
<tr><td>事業形態</td><td>受託事業（東京都社会福祉協議会）</td></tr>
<tr><td>財源内訳</td><td>受託金</td></tr>
<tr><td>担当係</td><td>総務係</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画における視点</td><td>ともにみまもる</td></tr>
<tr><td>目　　的</td><td>所得の少ない世帯、障害者世帯、介護を必要とする高齢者がいる世帯に対し、その世帯の生活の安定と経済的自立を図ることを目的に、必要な相談援助と資金の貸付を行う。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>１．相談支援</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>１）相談実績
<table>
<tr><td></td><td>件数</td></tr>
<tr><td>30年度</td><td>1,089件</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>1,213件</td></tr>
</table>
＊相談件数の中には少ないものの、ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業に関する相談件数も含まれる。</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価方向性等</td><td>・生活保護受給者より生活必需品購入に関する相談件数が増加傾向にある。
・このような傾向を受け、日野市セーフティネットコールセンターと同時に日野市生活福祉課とのより良い連携を図る事が重要で、現在は相互にコミュニケーションを深め、効率の良い効果的な業務が成されている。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>２．貸付相談及び貸付申請事務手続き</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>１）貸付実績
<table>
<tr><td></td><td>貸付件数</td><td>取扱金額</td></tr>
<tr><td>30年度</td><td>23件</td><td>49,082,500円</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>27件</td><td>62,796,800円</td></tr>
</table>
２）貸付実績内訳（福祉費には、不動産担保型生活資金・要保護世帯向不動産担保型生活資金を含む）
<table>
<tr><td></td><td>福祉費</td><td>緊急小口</td><td>教育支援</td><td>総合支援</td></tr>
<tr><td>30年度</td><td>6件</td><td>0件</td><td>14件</td><td>0件</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>6件</td><td>1件</td><td>17件</td><td>0件</td></tr>
</table>
３）総合支援資金の支援活動
総合支援資金は平成21年10月に創設された制度で、借受人は資金の借入と共に継続的な相談支援を受けることが条件となっている。月１回の面接時には就職活動の報告を受け、内容を確認し早期就労を目指した支援を行っている。ただし、27年度から制度利用者は無し。
・借受人総数　44人
（内訳）・資金完済者　　5人
・債務整理者　　3人
・借受人死亡　　1人
・東京都社会福祉協議会へ事務移管　3人</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td>・現在の借受人　32人
・就職者　28人　・就職率　87,5%
・貸付件数の償還率　51,5%　・借受人別の償還率　54.8%
（一人で複数借入しているため）</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・教育支援資金は母子福祉資金からの相談も多い。(29年度17件、30年度14件)
・福祉費では生活保護世帯の生活必需品購入貸付（エアコン購入）も増加傾向にあり、来年度以降も増加傾向になると思われる。
(29年度5件（エアコン3件)、30年度5件（エアコン4件))
・要保護世帯向不動産担保型生活資金の貸付が1件（8,750,000円)、生活福祉課が制度の理解を深めているため、今後も増加していくものと思われる。
・総合支援資金は昨年同様、相談案件もなく貸付もない。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>３．関係機関との連携</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>１）民生委員　生活福祉部会会員への研修会
生活福祉資金と民生委員の関わりについて説明を行った。
開催日　6/1（金）

２）地域支援員への研修会
生活福祉資金に関する概要説明を行った。
開催日　12/19（水）

３）日野市セーフティネットコールセンター（SCC）
家計相談員との連携
生活困窮者自立支援事業の一環である家計相談を受ける事を前提に、教育支援資金を貸し付けた借受人世帯の生活状況や収支の改善状況について、随時意見交換を行った。</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・生活福祉資金貸付にあたり、民生委員の協力は必須であり、利用者支援の観点から研修会を開催した。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>４．日野市生活福祉資金貸付事業（償還業務のみ）</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>平成２１年度を以って終了した日野市生活福祉資金貸付事業について、償還未済の借受人に対し償還請求を行った。

１）償還状況
<table>
<tr><th></th><th>件数</th><th>人数</th><th>貸付金残額</th><th>償還額</th><th>回収
不能額</th></tr>
<tr><td>30年度</td><td>18件</td><td>17人</td><td>798,000円</td><td>98,000円</td><td>158,000円</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>24件</td><td>23人</td><td>1,054,000円</td><td>29,000円</td><td>0円</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・借受人に対し定期的な居住確認を行い、併せて償還依頼を行っていく。
・借受人4名からの償還金が返還され、内2名が償還完了となった。
・借受人3名（行方不明1名・死亡2名）の債権放棄の手続きを行った。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>５．償還相談及び償還免除等の申請事務手続き</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>総合支援資金以外の償還率　72.1%</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・償還滞納者に督促状を郵送するだけでなく、電話連絡や訪問調査を行い償還を促している。
・償還が難しい世帯については、東京都社会福祉協議会と相談しながら延滞利子免除や償還免除の手続きを行っている。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td>ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業</td></tr>
<tr><td>事業形態</td><td>受託事業（東京都社会福祉協議会）</td></tr>
<tr><td>財源内訳</td><td>手数料</td></tr>
<tr><td>担当係</td><td>総務係</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画における視点</td><td>ともにみまもる</td></tr>
<tr><td>目　　的</td><td>東京都内において、高等職業訓練促進給付金を活用して養成機関に在学し、就職に有利な資格の取得を目指すひとり親家庭の親に対し、高等職業訓練促進資金を貸し付け、修学を容易にすることにより、資格取得を促進し、ひとり親家庭の親の自立の促進を図ることを目的とする。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>貸付相談及び貸付申請事務手続き</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>1）貸付実績
<table>
<tr><td></td><td>貸付件数</td><td>取扱金額</td></tr>
<tr><td>30年度</td><td>3件</td><td>1,500,000円</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>3件</td><td>1,500,000円</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業効果・評価方向性等</td><td>・29年度からスタートした「ひとり親家庭高等職業訓練」は、30年度3件の貸付が決定した。今後の推移を見守っていきたい。</td></tr>
</table>

福祉サービス利用援助事業

事　業　名	**地域福祉権利擁護事業**
事業形態	受託事業（東京都社会福祉協議会）
財源内訳	受託金、利用料、利息
担当係	権利擁護係
地域福祉活動計画における視点	ともにみまもる
目　　的	認知症や障害により判断能力が十分でない方が、地域で安心して暮らしていくことをサポートする
事業内容	**1．地域福祉権利擁護事業**

実績報告

1）地域福祉権利擁護事業利用状況

認知症・知的障害・精神障害等により、必要な福祉サービスを自分で適切に選択・利用することや、日常的な金銭管理が不安な方に対し、福祉サービスの利用援助・日常金銭管理・書類等預かりサービスによる支援を行った。

	相談・支援	新規契約	終了(解約)	年度末契約件数
30年度	2,100件	21件	10件	65件
29年度	1,952件	16件	12件	54件

2）生活支援員連絡会

事務連絡、活動状況報告の他、利用者の支援にあたる生活支援員からの状況報告を受け、情報交換を行った。（生活支援員登録数　29人）

開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
4/19	20人	5/17	18人	6/21	22人
7/19	17人	9/20	20人	10/19	13人
11/15	22人	12/19	15人	1/17	20人
2/21	17人	3/14	15人		

3）生活支援員　内部研修参加状況

開催日	内容	主催	参加者
4/19	高齢者食事宅配サービス事業を知る	日野市社会福祉協議会	20人
5/17	在宅高齢者ケアサービス事業と総合事業を知る		18人
6/21	ハンディキャブ事業を知る		22人
7/19	コミュニケーション支援事業と聴覚障害の理解		17人
10/19	援助実施票の記入について（グループワーク）		13人
12/19	生活福祉資金貸付制度について		12人

	4）生活支援員　外部研修参加状況 6/1　他 ／ 精神保健福祉研修 ／ 多摩精神保健福祉総合センター ／ 4人 9/7 ／ 認知症高齢者の理解と支援～コミュニケーションに大切な視点を学ぶ～ ／ 東京都社会福祉協議会 ／ 6人
事業効果・評価方向性等	・生活支援員連絡会を活用し、研修を行った。 ・新規契約者を増やすことができた。 ・利用者の状況に応じて成年後見制度への移行支援を行った。

事　業　名	**権利擁護センター日野**
事業形態	独自事業
財源内訳	利用料、利息、繰越金
担当係	権利擁護係
地域福祉活動計画における視点	ともにみまもる
目　　的	認知症や障害により判断能力に支障がある方、判断能力に支障はないが病弱・虚弱、障害等で日常生活が困難な方が地域で安心して暮らしていくことをサポートする。
事業内容	**1．財産保全・管理サービス**
実績報告	1）財産管理・保全サービス 身体障害や病弱・高齢等により外出が困難な方に対し、預貯金の出し入れや日常生活に必要な各種手続き代行、書類預かりサービスを提供した。 相談・援助 ／ 新規契約 ／ 終了(解約) ／ 年度末契約件数 30年度 ／ 41件 ／ 0件 ／ 1件 ／ 3件 29年度 ／ 66件 ／ 0件 ／ 0件 ／ 4件 2）応急日常金銭管理 成年後見制度の申立から審判が下りるまでの間の応急支援として、行政からの依頼を受け、地域福祉権利擁護事業と同様のサービスを実施した。 30年度 ／ 106件 29年度 ／ 81件
事業効果・評価方向性等	•地域福祉権利擁護事業から成年後見制度の利用までの一貫した支援を行うことができた。 •成年後見制度利用までの申し立てと後見人等の選任までの期間が長くなるケースが増えたことで、1人に対する支援回数が多かった。

<table>
<tr><td>事業内容</td><td>２．成年後見制度における相談・支援の充実</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>判断能力に支障のある方の親族、行政や地域包括支援センター等の関係機関からの相談を受け、成年後見制度の説明、申立支援、専門職団体の情報提供等を行い、成年後見制度の利用支援を行った。
<table>
<tr><td>30年度</td><td>122件</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>250件</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・行政や地域包括支援センター、金融機関等の関係機関からの紹介で相談に来る市民等への対応が多かった。
・日常生活や判断能力に支障がある方の相談窓口としての役割は大きくなってきている。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>３．市民後見人の養成と後見監督の実施</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>1）養成講習修了者の登録と候補者の推薦
市民後見人養成講習の修了者を、後見人候補者として登録。地域福祉権利擁護事業生活支援員として当事者支援の経験を重ねながら、「市民後見人」就任要請を受けた時に候補者推薦ができる体制を整えた。
（市民後見人候補者登録数　13人）

2）後見人の受任と法人後見監督の実施
身寄りがなく、セーフティネットの利用対象にもならない方に市民後見人が就任することにより、必要な介護サービスや制度を適切に利用することができた。
当会の市民後見人等候補者の中から受任した市民後見人と、成年後見に関するＮＰＯ法人の所属メンバーとして受任した後見人に対し、法人として後見監督を受任し、後見人等から3か月ごとの定期報告を受けた。
<table>
<tr><td>市民後見受任者</td><td>後見監督受任件数</td><td>申立手続中のもの</td></tr>
<tr><td>2人</td><td>3件</td><td>0件</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・支援してくれる身寄りがない方に市民後見人に付いてもらうことにより、必要な身上保護や財産管理を受けることができた。
・市民後見人が適切な後見業務を行っているかを監督すると同時に、市民後見人からの相談に対応することで、後見人として活動してもらうことをサポートし、当事者を生活目線で支援してもらうことができた。
・専門職後見人に引き継ぐべき方が多く、新規の市民後見人活用に繋がっていない。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>４．事業・制度広報周知</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>1）講演会
<table>
<tr><td>開催日</td><td>場所</td><td>内容</td><td>参加者</td></tr>
<tr><td>3/11</td><td>多摩平
交流ｾﾝﾀｰ</td><td>認知症になった波平さん
～契約社会と成年後見制度～
講師:東濃成年後見センター　渡辺哲雄氏</td><td>77人</td></tr>
</table>
2）出張説明会
地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、自治会を個別訪問し、事業説明をおこなった。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td>3）成年後見制度説明会の開催
成年後見制度の周知・活用を図るため、日野市福祉政策課・高齢福祉課等と共催で制度説明会を実施した。
<table><tr><td></td><td>開催日</td><td>参加者</td><td>相談者</td></tr><tr><td>第１回</td><td>10/17</td><td>41人</td><td>3人</td></tr><tr><td>第２回</td><td>10/20</td><td>39人</td><td>4人</td></tr><tr><td>第３回</td><td>10/24</td><td>40人</td><td>3人</td></tr><tr><td>第４回</td><td>10/27</td><td>13人</td><td>2人</td></tr><tr><td>第５回</td><td>11/7</td><td>40人</td><td>3人</td></tr><tr><td>合計</td><td></td><td>173人</td><td>15人</td></tr></table>※講師
第1回　　本村雄一　氏（日野社会福祉士会会長）
第2.3回　相田浩和　氏（東京司法書士会多摩支部長）
第4回　芳賀敏春　氏（成年後見センター・リーガルサポート東京支部長）
第5回　大庭百合子　氏（東京社会福祉士会）</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・講演会や説明会を通して、市民に直接周知できたと同時に関係機関との連携が強化できた。</td></tr>
</table>

事業内容	**５．他機関との連携強化**

実績報告

１）運営委員会

東京三弁護士会多摩支部、東京司法書士会三多摩支会をはじめ、地域包括支援センターや関係行政機関等に協力を求めて運営委員会を設置し、センターの事業運営や複雑・専門化する個別の案件についての対応を図るとともに、後見監督、財産保全・管理、応急金銭管理等についての検討を行った。

5回開催（4/25、6/27、9/11、11/14、2/8）

２）成年後見関係機関ネットワーク会議

成年後見制度に関する相談・支援を行う行政や地域包括支援センター、専門職後見人等と一つのテーマを通して、課題の共有や情報交換を行った。

開催日	参加者	内容
2/28	35人	成年後見制度利用促進基本計画における地域連携ネットワーク 講師：弁護士　岡垣豊氏

３）関係機関の連絡会等への参加

開催日	内容
5/24,2/6	利用者支援市区町村連絡会
6/21,9/5	成年後見制度推進機関フォローアップ研修
6/27	地域福祉権利擁護事業業務連絡会
7/25,10/31,3/1	成年後見制度推進機関テーマ別研究会議
11/28,2/25	東京家庭裁判所立川支部•行政•社協•三士会連絡会
2/12	関係機関と東京家裁との連絡協議会

４）南多摩ブロック社協職員の会　地権・成年後見制度担当者会議

開催日	内容
6/11	中核機関について各社協の取組、災害時の利用者対応 東社協委託費について
7/24	東社協委託費について
2/1	中核機関について各社協の取組 東社協委託費について

事業効果・評価方向性等	•成年後見に関係する各種の専門職の顔の見える関係づくりを行うことにより、虐待が疑われるケース等、福祉的な課題があって後見制度の活用による支援が必要なケースへの理解が深まった。 •権利擁護センターの活動を周知することができた。

福祉人材育成事業

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td>手話通訳者研修事業</td></tr>
<tr><td>事業形態</td><td>受託事業（日野市）</td></tr>
<tr><td>財源内訳</td><td>受託金</td></tr>
<tr><td>担当係</td><td>総務係</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画における視点</td><td>ともにそだつ</td></tr>
<tr><td>目　　的</td><td>日野市内で活動する手話通訳者の技能の習得及びレベルアップを目指す。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>１．登録手話通訳者の資質向上</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>現任の日野市登録手話通訳者を対象に、通訳者としてのスキルアップを目的とした研修を実施した。
<table>
<tr><td>開催日</td><td>内　容</td><td>参加者</td></tr>
<tr><td>10/4</td><td>「読み取り通訳技術」
講師　宮澤典子　氏
（国立障害者リハビリテーションセンター学院教官）</td><td>9人</td></tr>
<tr><td>10/11</td><td>「NMトレーニング（Non Manual Markers）
非手指標識の技術研修」
講師　野口岳史　氏
（国立障害者リハビリテーションセンター学院教官）</td><td>12人</td></tr>
<tr><td>10/27</td><td>「医療現場での通訳、援助技術について」
講師　河野光子　氏
（東京手話通訳等派遣センター）</td><td>7人</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業効果・評価方向性等</td><td>・31 年度は手話通訳者の技能習得及びレベルアップを図ることができる研修プログラムを、日野市聴覚障害者協会及び日野市登録手話通訳者の会とともに検討する。当事者の意見を参考にし、より充実したプログラムを作っていく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td>手話講習会事業</td></tr>
<tr><td>事業形態</td><td>受託事業（日野市）</td></tr>
<tr><td>財源内訳</td><td>受託金</td></tr>
<tr><td>担当係</td><td>総務係</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画における視点</td><td>ともにそだつ</td></tr>
<tr><td>目　　的</td><td>手話および聴覚障害者に関する基本的な知識と技術を習得することを目指し、健聴者と聴覚障害者との相互理解を深め、手話全般に関する啓発および普及を図る。また、将来に亘り日野市登録手話通訳者を増やす。</td></tr>
</table>

事業内容	**1．手話講習会の実施**

実績報告

厚生労働省「手話奉仕員」「手話通訳者」養成カリキュラムに基づき、手話の普及啓発を目的としたコミュニケーションコース、手話通訳者を目指す通訳養成コースの２コース４クラス制（7クラス）で実施した。

1）実績

コース	クラス	受講者数	修了者数	皆勤賞
コミュニケーション	入門（昼）	28人	20人	10人
	入門（夜）	42人	28人	5人
	基礎（昼）	21人	17人	3人
	基礎（夜）	17人	13人	3人
通訳養成	基本（昼）	15人	14人	4人
	基本（夜）	20人	13人	2人
	応用実践（夜のみ）	12人	2人	1人
30年度		155人	107人	28人
29年度		145人	100人	24人

2）通訳養成コース受講希望者に対する面談の実施

開催日　4/17（火）10：00～12：00/19：00～21：00

クラス	受講希望者数	受講決定者数	受講却下
基本昼	19人	15人	4人
基本夜	20人	20人	0人
応用実践	14人	12人	2人

3）開講式

開催日　5/9（水）

場　所　日野市市民の森ふれあいホール

＊ミニ講演会「聴覚障害と手話」

講師　有山一博　氏（日野市聴覚障害者協会　会長）

4）ミニ講演会等

日野市在住の当事者を招き講演会等を実施した。

開催日	内容	対象クラス
11/6	防災について 講師：有山一博　氏	基本（昼・夜） 応用実践
2/20	座談会 ゲスト:森田由紀恵　氏、吉田真弓　氏	入門、基礎 （昼クラス）
2/20	座談会 ゲスト:有山美代子　氏、田原夏子　氏	入門、基礎 （夜クラス）

5）講演会

開催日	内容	対象クラス
7/24	「手話通訳者を目指す皆さんへ」 講師：渡邊早苗　氏 （東京手話通訳等派遣センター）	基本（昼・夜） 応用実践
10/24	「手話を学ぶ皆さんへ」 講師：原田洋行　氏 （東京手話通訳等派遣センター）	入門、基礎 （昼・夜）

	6）閉講式 開催日　3/20（水） 場　所　日野市市民の森ふれあいホール
事業効果・評価 方向性等	・開講式の際には昨年と同様にミニ講演会を実施。大変好評だった。 ・今年度より入門昼クラスの方を対象に２人まで保育を実施。対象外の方を含め５人の方から希望の声が寄せられた。入門昼クラスだけでなく、基礎昼クラスも対象にしてほしいという声もあったため、今後市役所と内容について再度検討していく必要がある。 ・入門夜クラスの受講者数が42人と非常に多くなり、手話に関心を持つ人が増加しているように思われる。 ・基本昼クラスのアンケート集計結果から応用実践クラス昼の開講を希望する声が多いため今後市役所担当者とクラス編成について検討していきたい。 ・閉講式が例年長時間となることから、修了証や皆勤賞の授与方法を変更した。あわせて関係団体挨拶（日野市聴覚障害者協会・日野市登録出通訳者の会・ひの手話サークル）を１団体のみの挨拶としたところ時間が短縮され、受講生スピーチに時間を割くことができた。
事業内容	**２．講師・助手会議等の開催**
実績報告	１）講師助手会議　2回開催（4/24、3/4） ２）次年度検討会　３回開催（7/30、1/29、2/12）
事業効果・評価 方向性等	・今年度より入門昼クラスに保育を導入したが、反響があり子育て世代を取り込むために有効な手段だと分かった。次年度検討会には、実施主体である日野市障害福祉課の担当者も出席しており、次年度の保育導入について話し合いを行った。 ・通訳養成コースの受講上限年齢について、講師から従来の年齢から引き上げるよう希望が挙がったため、次年度検討会を臨時で２月に実施した。次年度以降、当会の手話通訳者の就業に関する要綱と手話講習会の目的を照らし合わせ、整合性の取れるものになるよう検討していきたい。 ・今年度統一試験合格者は２名いたものの、講師助手より統一試験受験者に対する集中講座の開講を希望する声が上がっている。次年度以降、実施主体である日野市と話し合いをする前に、まずは関係団体と手話講習会の組み立てについて検討をすすめる。

事　業　名	**福祉のしごと相談・面接会**
事業形態	共催事業（東京都福祉人材センター）
財源内訳	歳末たすけあい配分金
担当係	総務係
地域福祉活動計画 における視点	ともにそだつ
目　　的	介護職をはじめとする日野市の福祉人材の確保・開拓を図る。

事業内容	**1．日野市福祉のしごと相談・面接会（地域密着型面接会）**
実績報告	1）共催　東京都福祉人材センター多摩支所・ハローワーク八王子 2）実績

	開催日・場所	参加事業所	来場者	就職者
30年度	9/22（土） 中央福祉 センター	16社 内訳　高齢 11社 障害　3社 保育　2社	33人	8人 内訳　高齢7人 保育1人
29年度	9/20（水） 福祉支援 センター	14社 内訳　高齢　7社 障害　5社 保育　2社	33人	3人 内訳　高齢1人 障害1人 保育1人

事業効果・評価 方向性等	・今年度、初めて土曜日に開催した。また、開催場所も福祉支援センターから中央福祉センターに変更し、参加事業所数を増やすことができたが参加者数は変化がなかった。次年度の開催場所や曜日の検討をしていく。 ・参加者アンケートから「事業者からの丁寧な対応をいただいた」との声も挙がり、福祉業界への関心が低下する中、事業者側も人材確保に力を入れていることがうかがえる。こうしたことにより採用者は前年度を上回った。

事　業　名	**福祉のしごと見学会**
事業形態	受託事業（日野市） 共催事業（ハローワーク八王子・東京都福祉人材センター）
財源内訳	受託金、歳末たすけあい募金
担当係	総務係
地域福祉活動計画における視点	ともにそだつ
目　　的	人材募集をしている事業所への就労相談・人材確保の機会を図る。
事業内容	**福祉のしごと見学会の実施**
実績報告	市内福祉事業者の人材確保と福祉のしごとへの関心を高めるため、同日午前午後に分け、福祉施設2施設を見学する見学会を実施した。今年度は夏と冬の2回実施。 1）共催　東京都福祉人材センター多摩支所・ハローワーク八王子 2）福祉のしごと見学会

開催日		見学施設	参加者	就職者
7/11	午前	特別養護老人ホーム浅川苑	10人	1人
	午後	介護老人保健施設カトレア	10人	2人
12/5	午前	日野療護園	2人	0人

事業効果・評価 方向性等	・昨年同様、7月と12月（予定）と時期を分けて実施することで、福祉のしごと相談・面接会と併せて、通年を通じ福祉人材の確保に努めていく。 ・冬の見学会は2日間別施設にて行う予定だったが、参加者が0人だったため中止となった。

	・昨年までのバスツアー型施設見学会では、移動に時間を費やすため滞在時間が短く質疑の時間が足りないといった声があった。今年は施設集合とし１施設での滞在時間を増やし、見学や説明はもとより現場に従事する職員と対話する時間を設定することができた。また、希望者には当日面談可能としている。 ・今年度は夏と冬で参加者数に大きな差が見られた。次年度は従来のバスツアー型や土日開催等を検討していきたい。

事　業　名	**介護人材育成研修事業**
事業形態	受託事業（日野市）
財源内訳	受託金
担当係	在宅サービス係、総務係
地域福祉活動計画における視点	ともにそだつ
目　　的	市内在住・在勤の高齢福祉サービス・障害福祉サービス分野の事業所従事者を対象にした研修会を実施し、スキルアップや定着の促進を図る。また、人材が不足する福祉施設の見学会を実施し、人材確保を支援する。
事業内容	**福祉施設・事業経営者および従事者向け研修会の実施**

実績報告

１）施設職員研修（全５回）

開催日	内容	参加者
8/24夜	若年性認知症への切れ目ない支援を探る！	20人
11/17午前	介護実技	24人
11/17午後	介護実技	25人
12/14夜	虐待防止虐待防止＆ケアカＵＰ！不適切なケアを見極める	22人
2/26夜	認知症ケアＱ＆Ａ	43人

２）訪問介護員研修（全４回）

開催日	内容	参加者
8/21午後	調理実習「和食のプロから学ぶ」	22人
11/3午前	介護実技	21人
11/3午後	介護実技	22人
2/20午後	コミュニケーション術	17人

３）介護支援専門員研修（全３回）

開催日	内容	参加者
12/5午前	ケアプラン　ここを押さえる	70人
12/5午後	ケアプランの点検　自分のプラン・部下のプラン	44人
1/18午後	成年後見制度と日常生活自立支援事業	55人

４）経営者・管理者研修（全２回）

開催日	内容	参加者
7/7午前	セミナー「選ばれる事業所は“ココ”が違う」	20人
1/28午後	地域包括ケアシステム　事業所が「今」できること	24人

事業効果・評価 方向性等	・施設職員研修では、認知症のある利用者やその家族への関わり方についての研修に高齢福祉サービスと障害福祉サービス双方の事業所から今年度最多の参加者があり、対人援助における認知症の理解への関心の高さが伺い知れた。また、講師の来島みのり氏による若年性認知症をテーマにした研修は、障害福祉サービス事業所の職員による希望から実現した。 ・訪問介護員研修では、参加者からは高評価を得ている一方で、参加者人数が伸びないことが長らくの課題となっている。 ・介護支援専門員研修では、後藤佳苗氏によるケアプラン研修の継続を希望する声と、成年後見制度と地域福祉権利擁護事業に関する研修についても次年度開催を希望する声があった。 ・経営者・管理者研修は今年度開始したが、参加者から継続しての開催を希望する声があった。 ・定評のある講師の謝金の相場は高く、参加者からの希望に応えるためには引き続き依頼をしていくが、新しい講師を発掘するチャレンジがより求められてきている。

事　業　名	**実習生の受入**
事業形態	独自事業
財源内訳	手数料
担当係	総務係・地域支援係・ボランティア係・権利擁護係・在宅サービス係
地域福祉活動計画 における視点	ともにそだつ
目　　的	将来の福祉人材の育成のため、社会福祉士を目指す学生を実習生として受け入れ、専門職としての指導を行う。
事業内容	**実習プログラムの充実**
実績報告	大学や専門学校で社会福祉士取得を目指している学生に、社会福祉協議会における、社会福祉士にとって必要な知識や技術の指導を行った。実習総括のため学生による活動発表・報告会を実施した。 1）概要および内容

教育機関（学校名）	期間（日数・時間）	受入数
明星大学 人文学部福祉実践学科3年	8/20-10/4 (24日間・180時間)	1人
日本女子大学 人間社会学部社会福祉学科3年		1人
大妻女子大学 人間関係学部社会福祉学科3年	1/29-3/15	2人

2）実習報告会　10/4、3/15

事業効果・評価 方向性等	・福祉人材の育成を目的に、社会福祉協議会の業務や「社会福祉士」としての役割について学生へ実習指導を行った。 ・実習生の実習目標の達成度・成果を確認するため、報告会を実施した。

法人運営事業

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td>組織運営事業</td></tr>
<tr><td>事業形態</td><td>独自事業、補助事業</td></tr>
<tr><td>財源内訳</td><td>補助金、会費、寄附金、償還金、広告料、手数料、受入研修費、利息、積立金</td></tr>
<tr><td>担当係</td><td>総務係（11.部会活動は地域支援係、ボランティア係）</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画における視点</td><td>ともにそだつ</td></tr>
<tr><td>目　　的</td><td>各種法令や諸規程を遵守し、住民参加による透明性の高い法人組織として健全な運営を図る。
法人内の係間の調整や事務局管理を行い、効果的かつ功利的な経営が行われるよう努める。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>１．理事会・評議員会・経営会議の開催、監事監査の実施</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>定款に基づき、理事会・評議員会を開催した。

1）理事会
<table>
<tr><th></th><th>実施日</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>第1回</td><td>5/31</td><td>報告事項
報告第1号　会長及び常務理事の職務執行状況について
審議事項
審議第1号　平成２９年度　事業報告について
審議第2号　平成２９年度　決算報告ならびに監査報告について
審議第3号　社会福祉充実残額の承認について
審議第4号　定款の一部改正について
審議第5号　事務局規程の一部改正について
審議第6号　理事候補者の選任について
審議第7号　役員等選出規程の一部改正について
審議第8号　定時評議員会の開催について</td></tr>
<tr><td>第2回</td><td>11/12</td><td>報告事項
報告第2号　会長及び常務理事の職務執行状況について
報告第3号　定款変更認可の報告について
審議事項
審議第9号　平成３０年度上半期　事業報告について
審議第10号　平成３０年度上半期　決算見込み報告ならびに監査報告について
審議第11号　第一次補正予算の報告・承認について
審議第12号　第二次補正予算の報告・承認について
審議第13号　評議員会の開催について</td></tr>
<tr><td>第3回</td><td>3/18</td><td>審議事項
審議第14号　コミュニケーション支援事業運営規程の全部改正について
審議第15号　手話通訳者の就業に関する要綱の制定について
審議第16号　日野市生活困窮者等子どもの学習等支援事業運営規程の制定について
審議第17号　居場所支援指導員・学習支援コーディネーター等の就業に関する要綱の制定について
審議第18号　生活支援員の就業に関する要綱の制定について
審議第19号　平成３１（２０１９）年度　事業計画について
審議第20号　平成３１（２０１９）年度　予算について
審議第20号　第３回評議員会の開催について</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

2）評議員会

	実施日	内容
第１回 （定時）	6/15	議案事項 議案第１号　平成２９年度　事業報告について 議案第２号　平成２９年度　決算報告ならびに監査報告について 議案第３号　社会福祉充実残額の承認について 議案第４号　定款の一部改正について 議案第５号　事務局規程の一部改正について 議案第６号　理事の選任について 議案第７号　役員等選出規程の一部改正について
第2回	11/20	報告事項 報告第１号　定款変更認可の報告について 議案事項 議案第８号　平成３０年度上半期　事業報告について 議案第９号　平成３０年度上半期　決算見込み報告ならびに監査報告について 議案第10号　第一次補正予算の報告・承認について 議案第11号　第二次補正予算の報告・承認について
第3回	3/26	議案事項 議案第12号　コミュニケーション支援事業運営規程の全部改正について 議案第13号　手話通訳者の就業に関する要綱の制定について 議案第14号　日野市生活困窮者等子どもの学習等支援事業運営規程の制定について 議案第15号　居場所支援指導員及び学習支援コーディネーター等の就業に関する要綱の制定について 議案第16号　生活支援員の就業に関する要綱の制定について 議案第17号　平成３１（２０１９）年度　事業計画について 議案第18号　平成３１（２０１９）年度　予算について

3）経営会議　12回開催

4）内部監査（監査）
①平成29年度決算監査　　5/22（月）
②平成30年度中間決算監査　　10/26（木）

事業内容	**２．第４次日野市地域福祉活動計画推進会議**
実績報告	平成27年３月策定の第４次日野市地域福祉活動計画（5ヵ年）推進のため、策定委員並びに福祉政策課から委員を選出し、推進会議を開催。 １）地域福祉活動計画推進委員　委員構成 ・日野市商工会 ・実践女子大学 ・権利擁護センター日野 ・南平ふれあい協議会 ・工房夢ふうせん ・地域包括支援センターすてっぷ ・日野市民生・児童委員協議会 ・日野市健康福祉部福祉政策課 ２）内容 開催日　2/1（金） 内　容　・進捗状況の報告、今後の方向性

	・第４次日野市地域福祉活動計画において平成31年度を「次期計画の策定の年」と位置づけてしている。現在の第４次日野市福祉活動計画と日野市が策定する第３期日野市地域福祉計画の策定年度・計画期間が全く同じであるため、現計画の推進状況をみると「地域福祉計画（日野市）」が固まってから「地域福祉活動計画（社協）」を策定した方が、より計画の実効性が高まると考え、策定時期を１年ずらすことを本推進会議で諮ったところ、委員全員から了承が得られた。 ・今後は、「東京都地域福祉支援計画」及び日野市の動向を確認しながら、現計画を進めていく。
事業内容	**３．日野市内社会福祉法人ネットワーク会議**
実績報告	社会福祉法の改正（平成28年３月制定）により社会福祉法人の求められる「地域公益活動」等について法人同士の連携を図っていくことを目的に、日野市内社会福祉法人ネットワークを設置した。事務局は日野市社会福祉協議会総務係とする。 １）幹事　（順不同敬称略） 代表　平井　寛　（社会福祉法人東京緑新会　多摩療護園） 浅野大輔（社会福祉法人夢ふうせん　工房夢ふうせん） 吉冨正敏（社会福祉法人吹上会　吹上保育園） 長谷川育代　（社会福祉法人至誠学舎立川　万願寺保育園） 神田耕治（社会福祉法人友遊の家　友遊ケアセンター） 五十嵐淳一（社会福祉法人寿優和会　あすなろ） 奥住日出男（社会福祉法人日野市社会福祉協議会） ２）実施した取り組み・活動 ①日野市内社会福祉法人活用ガイドブック発行 社会福祉法人の社会資源を見える化するため「社会福祉法人活用ガイドブック」を12月に1,000部発行。 掲載施設　46施設 掲載内容　無料相談・出前講座・施設＆附帯設備の貸出・広報協力等 ②地区別意見交換会 若手中堅職員を対象とした施設職員の人材育成ならびに交流を目的に「福祉の魅力再発見！つながろう！社会福祉法人の仲間たち」と題し意見交換会を開催。 A. たかはた地区意見交換会 日時　11/22（金）15：30～17：15 場所　日野市立福祉支援センター会議室 参加　9法人11施設 （介護老人福祉施設ラペ日野・高幡台老人ホーム・地域包括支援センターあさかわ・東京都七生福祉園・日野療護園・多摩療護園・地域生活相談センターあおしす・たんぽぽ高幡センター・むこうじま保育園・高幡北保育園・日野市社会福祉協議会） B.とよだ・ひらやま地区合同意見交換会 日時　2/15（金）15：30～17：15 場所　東京光の家Kitchen & Cafe Canaan 参加　7法人10施設

（工房夢ふうせん・夢ふうせんANNEX・つばさ・はくちょう・すずかけの家・東京光の家・特別養護老人ホーム豊かな里・友遊ケアセンター・たまだいら児童館ふれっしゅ・日野市社会福祉協議会）

③日野市民でつくる防災・減災シンポジウム（共催）
実行委員として6社会福祉法人が参加、シンポジウム当日の参加も呼びかけを行った。
実行委員の社会福祉法人：東京緑新会（多摩療護園）・夢ふうせん・東京光の家・寿優和会（地域包括支援センターあさかわ）・マザアス・のぎく会（ひの保育園）

④第34回福祉のつどい（共催）
第二部「あなたから始まる地域共生社会を考えるシンポジウム」を開催
日時　2/23（土）10：00～12：15
場所　日野市民会館小ホール
内容　「輝く子どもの笑顔のために」日野市内で活動する3つの取り組み
①「食がむすぶ子どもの支援」NPOフードバンクTAMA
②「地域の想いつまった“ほっかほかのおむすび”」
おむすびキッチン＆（社福）夢ふうせん
③「地域でつくる学習支援の輪」無料学習塾日野すみれ塾

3）参加法人（29法人）

	法人名
保育	吹上会・至誠学舎立川・栄光会・ねぐるみ会・つくしんぼ保育園・わかば福祉会・菊美会・のぎく会
高齢	マザアス・友遊の家・大家族・博泉会・隆山會・三多摩福祉会・緑樹会・にんじんの会・創隣会・寿優和会
障害	東京緑新会・夢ふうせん・東京光の家・おおぞら・幹福祉会すずかけの会・日野青い鳥福祉会・東京都福祉事業団
その他	二葉保育園・雲柱社
地域	日野市社会福祉協議会（事務局）

事業効果・評価方向性等

・日野市内社会福祉法人ネットワークでは、各法人の持つ資源を見える化するため「日野市内社会福祉法人活用ガイドブック」を発行し、公共施設や自治会・民生児童委員・老人クラブ・サロン団体等に配布した。
・多くの地域や社会福祉法人でも抱えている防災に関する課題や現状を把握のため、「日野市民でつくる防災・減災シンポジウム」の開催にあたり、市民で構成される実行委員会には社会福祉法人も加わり、市民とともに地域の防災に関する検討を行った。実行委員に参加した法人からは、「地域の防災に関わる人と知り合えた」「地域防災の現状や課題を感じた」「福祉避難所についても検討を図っていきたい」と言った声が挙がっている。
・これまでのネットワーク活動で「若手・中堅職員の人材育成」や「より身近な地域でのつながりを深めていきたい」との声が挙がり、地区別意見交換会を実施した。福祉施設において分野（保育・障害・高齢）を越えて集まる機会が少なく参加者からは「継続を望む」声が多数挙がった。
・防災とともに大きな課題の一つである「子どもの支援」に対して、「第34回福祉のつどい」の機会を通じてシンポジウムを開催した。ＮＰＯ法人フードバンクＴＡＭＡなど日野市内を中心に活動する団体からの事例報告を行った。
今後の社会福祉法人が行う地域公益活動などの検討するための問題提起・情報共有として有意義な機会となった考えている。

<table>
<tr><td>事業内容</td><td>４．日野市関係委員会への委員協力</td></tr>
<tr><td>具体的内容</td><td>日野市が行う関係する委員会等に選出（推薦）し、日野市の地域福祉活動等の連携を深めるとともに情報共有を図る。
１.日野市地域福祉計画推進委員会
２.日野市子ども家庭支援ネットワーク連絡協議会
３.日野市介護保険運営協議会
４.日野市摂食・嚥下機能支援推進協議会
５.日野市住宅ストック活用推進協議会
６.日野市居住支援協議会
７.日野市生活困窮者自立支援相談事業支援調整会議
８.東京オリンピック・パラリンピック関係委員会
９.日野市自立支援協議会
10.日野市地域力推進強化委員会（NPO 創隣会）</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・日野市の主に福祉事業に関係する委員会等に職員が委員として参加協力し、必要な情報交換、事業協力を行っている。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>５．社会福祉協議会会員会費の拡充・啓発、寄附金の受領</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>地域福祉活動のための財源確保として、市民をはじめ自治会、民生委員、赤十字奉仕団、企業等の関係機関へ協力を呼びかけ、併せて協力依頼とともに事業案内を行うことにより、地域福祉活動の普及・推進に努めた。
１）実績
<table>
<tr><td></td><td>合計額（件数）</td><td>内訳</td></tr>
<tr><td>30 年度</td><td>3,845,372円（977件）</td><td>個人　577,500円（460件）
特別　495,000円（145件）
団体　2,772,872円（372件）</td></tr>
<tr><td>29 年度</td><td>3,741,660円（955件）</td><td>個人　560,600円（442件）
特別　533,000円（156件）
団体　2,648,060円（357件）</td></tr>
</table>
２）寄附金実績
<table>
<tr><td></td><td>合計額（件数）</td></tr>
<tr><td>30 年度</td><td>経常区分　2,647,695円　（101件）</td></tr>
<tr><td>29 年度</td><td>経常区分 15,571,335円　（99件）</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>・民生児童委員協議会や自治会、福祉関係団体等に会員会費の協力を呼び掛けるとともに、日野市商工会の承認を得、商工会全会員向けに協力をお願いした。
・会費は、個人・団体会員が微増し、昨年度実績を上回ることができた。
・寄附金件数は増加したが、額は減少している。その要因として、平成 29 年度は大口寄附（遺贈）があったこと、企業の周年行事やチャリティ事業等での大口寄附がなかったことが影響していると考えられる。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>６．法人管理運営</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>各種法令を遵守し、法人管理事務を行う。
・人事・給与　・福利厚生（健康診断・管理）　・文書類の収受
・事業計画・報告　・予算管理・決算事務（会計処理）　・その他の事務</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>事業内容</td><td>7．第34回福祉のつどい</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>
「第34回福祉のつどい」は、第1部にて社会福祉向上に貢献された方を表彰し、第2部では日野市内社会福祉法人ネットワークとの共催で「地域共生社会を考えるシンポジウム」を開催した。また、当日はフードドライブ活動を行い、約30kgの食品が集まった。
1）日時及び場所
平成31年2月23日（土）10：00～12：15　ひの煉瓦ホールホール
2）内容
<table>
<tr><td>第1部</td><td>1.表彰式
表彰状・感謝状贈呈式
受賞者　26人（表彰状12人/感謝状14人）
受賞者挨拶
佐々木トシコさん、川久保静枝さん
2.合唱
あおいとり日野
日野市民生・児童委員合唱団「かしの木」</td></tr>
<tr><td>第2部</td><td>地域共生社会を考えるシンポジウム
「輝く子どもの笑顔のために・・・」

事例発表　日野市内で活動する3つの取り組み
パネリスト　渡戸一郎さん（理事/明星大学名誉教授）
1.「食がむすぶ子どもの支援」
NPOフードバンクTAMA　事務局長　芝田晴一朗さん
2.「地域の想いつまった“ほっかほかのおむすび”」
おむすびキッチン　代表　平田康代さん
（社福）夢ふうせん　施設長　浅野大輔さん
3.「地域でつくる学習支援の輪」
無料学習塾日野すみれ塾　副代表　見生和美さん</td></tr>
</table>
3）表彰審議委員会
<table>
<tr><th>日程</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>1/16</td><td>推薦候補者等の結果報告・受賞者の決定
出席　理事3人・事務局</td></tr>
</table>
4）表彰者の推薦団体（10団体）
日野市赤十字奉仕団／（社福）すずかけの会／(社福)東京光の家
(社福)東京都福祉事業団東京都七生福祉園／NPO法人一穂会
NPO法人在宅福祉サービスウィズ「ケアホームともにこ」
NPO法人市民サポートセンター日野／朗読サークルひの
日野市精神障害者家族会いずみ会／日野市社会福祉協議会（日野市ボランティア・センター）
</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価
方向性等</td><td>
・34 回目にして初めてシンポジウムを行った。日野市内で現在行われている子どもに対する取り組みに焦点を当てた内容で、参加された方から大変好評だった。話を聞いただけではなく、後日これらの取り組みに協力を申し出る参加者もおり、地域のつながりが新たに生まれたことに成果を感じた。
・来年度以降も引き続き同じ形で開催できるよう、内容を企画したい。
</td></tr>
</table>

事業内容	**8．広報活動の工夫**
実績報告	多様な広報媒体を活用して、地域福祉活動ならびに社会福祉協議会の情報発信を行うとともに、分かりやすい紙面（記事）づくりに努める。 1）広報紙「ひの社協だより」 （新聞折込ならびに公共施設、社会福祉施設等にて配布） No230（6月10日発行）　49,000部 主な記事　日野市民でつくる防災・減災シンポジウム・夏の親子レクリエーション参加者募集・日野市社会福祉協議会会員募集 No231（9月 9日発行）　49,000部 主な記事　赤い羽根共同募金運動・みんなといっしょの運動会 権利擁護センター日野講演会・福祉のしごと相談面接会 No232（11月11日発行）　49,000部 主な記事　歳末たすけあいバザー・地域福祉活動助成金の募集 日野市災害ボランティアセンター・福祉のしごと見学会 No233（ 2月10日発行）　49,000部 主な記事　第34回福祉のつどい・ボランティア交流会・ヒカリ興業奨学基金奨学生の募集・権利擁護センター日野講演会 日野市介護サポーター制度説明会 2）広報紙「ひの社協タイムス」 Vol.6（ 8 月 25 日発行）　1,500 部 主な記事　シニア体力測定会、夏の体験ボランティア Vol.7（10 月 25 日発行）　2,000 部 主な記事　赤い羽根共同募金運動、日障連社協説明会 Vol.8（12 月 25 日発行）　2,000 部 主な記事　災害ボランティアセンター立ち上げ訓練、交流ひろばCafe Vol.9（ 3 月　5 日発行）　2,000 部 主な記事　福祉のつどい、とよだ・ひらやま地区意見交換会 3）その他 ・ボランティア・インフォメーション（毎月）発行 ・各事業パンフレット ・ホームページやブログ、フェイスブック、日野市生涯学習支援システムポータルサイト「Hi Know！」等インターネットによる情報配信を行う。
事業効果・評価方向性等	・「ひの社協だより」発行に際し編集会議を行い、掲載内容や分かりやすさ・親しみやすさ等、職員間の意見交換を行った。 ・「ひの社協だより」は、本会の最大の広報手段であるが、配布先である「新聞折込」が新聞購読者の減少に伴い、減少していることが課題となっている。
事業内容	**9．事務局体制の整備・職員の資質向上**
具体的内容	①職員会議　12 回 ②東京都や東京都社会福祉協議会等主催の各事業における研修参加を通じて、職員の資質向上に努める。 ■総務係 ・多重債務問題に関する研修 ・地域福祉コーディネーター養成研修＜基礎編＞ ■地域支援係 ・地域福祉コーディネーター養成研修（基礎編/実践編）

	・介護予防・日常生活支援総合事業者向け介護予防研修 ・平成30年度生活支援整備体制事業に係る情報交換会 ・平成30年度地域づくりを進めるコーディネーター連絡会 ・東京ホームタウンプロジェクト説明会 ・東京ホームタウンプロジェクト共創力アッププログラム基礎講座 ・生活支援コーディネーター現任研修 ・東京都介護予防推進会議 ■ボランティア係 ・東京医科大学八王子医療センター災害医療ボランティア研修会（トリアージ編） ・平成３０年度都内区市町村社協職員基礎研修 ■権利擁護係 ・地域福祉権利擁護事業専門員研修 ・成年後見制度推進機関フォローアップ研修 ・日中活動系サービス事業所職員研修 ・成年後見制度推進機関フォローアップ研修 ・地域福祉権利擁護事業•成年後見制度　共通学習会 ・精神科領域の疾病の理解 ・動機付け面接研修 ・高齢者・障害者虐待の基礎的な概念理解 ・高齢者・障害者虐待の事例に即した対応 ■在宅サービス係 ・都立多摩総合精神保健福祉センター研修 ■しごとサポートひの ・職業紹介責任者講習会 ・アクティブ職員実務研修 ・新任職員研修 ③都内社協職員連絡会、南多摩ブロック職員の会、局長会等の研修を活用して、職員の資質向上に努める。

事業内容	**10. 部会活動**

実績報告

1）障害者施設職員交流会部会

①情報交換会

日程	内容	場所
4/13	施設情報交換	中央福祉センター
5/18	明星大学ボランティアセンター・明星地区つながりの家「アムール」見学	明星大学ボランティアセンター
6/8	社会福祉法人夢ふうせん 工房夢ふうせん見学	工房夢ふうせん
7/20	社会福祉法人すずかけの会 すずかけの家見学	すずかけの家
9/21	社会福祉法人おおぞら　はくちょう見学	はくちょう
10/19	施設情報交換	中央福祉センター
11/16	施設情報交換	中央福祉センター
1/18	施設情報交換	中央福祉センター
2/22	意見交換 テーマ「人材確保の工夫、入職の決め手」	中央福祉センター
3/15	上映会「生きるのに理由はいるの？」	中央福祉センター

※3/15　上映会「生きるのに理由はいるの？～津久井やまゆり園事件が問いかけたものは～」　制作者の澤則雄氏を招き、上映後に意見交換を行った。

②ミニ学習会

12/2　模擬店講習会（歳末助け合いバザーにて出店）

2）児童部会

地域子ども会経験者等レクリエーションに長けた方が指導者となって、市内の児童福祉事業に協力した。

日程	活動参加イベント	場所
6/11	みんなの遊・友ランド	日野市市民の森 ふれあいホール
8/5	日野市民でつくる 防災・減災シンポジウム	実践女子大学
7/22	竹で炊けるサバイバルご飯	中央福祉センター
10/8	スポーツレクリエーションフェスティバル	市民の森スポーツ公園
10/27	八小まつり	第八小学校
11/23	二中三世代のつどい	日野第二中学校
12/2	歳末たすけあいバザー　模擬店担当	中央福祉センター
12/9	日野市総合防災訓練	中央公園
12/13	災害ボランティアセンター立ち上げ訓練	市民会館展示室

事業効果・評価方向性等

1）障害者施設職員交流会部会について

・施設間で協力体制を築くきっかけとなっているが参加施設が固定化しつつあるため、多くの施設に呼びかけを行う。

・部会として財源確保が難しいため講師を招いての学習会を開くことに苦慮している。

・福祉人材育成研修や社会福祉法人ネットワーク等との連携を図っていく必要がある。

<table>
<tr><td></td><td>２）児童部会について
学校の児童を対象としたイベントに協力するほか、障害児・者を対象としたイベントや、各種防災事業への協力を行っている。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>11. 福祉サービスに関する苦情申出窓口</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>１）苦情解決第三者委員
林　幹高　氏（ＮＰＯ法人福祉カフェテリア理事長）
安西　清　氏（保護司）
斎藤一郎　氏（学識経験者/前日野市民生・児童委員）

２）苦情申立件数
なし</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>12. 定款変更</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>理事会・評議員会の承認を得て、定款の一部改正を行った。
<table>
<tr><td></td><td>変更事由</td><td>所轄庁の認可日</td></tr>
<tr><td>１</td><td>新規事業の追加（公益事業含む）</td><td>9/12</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

公益事業拠点区分

福祉センター管理事業

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td>日野市立中央福祉センターの管理運営</td></tr>
<tr><td>事業形態</td><td>指定管理者制度（平成29年4月1日～平成33年3月31日）</td></tr>
<tr><td>財源内訳</td><td>受託金（指定管理料）、利息</td></tr>
<tr><td>担当係</td><td>総務係</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画における視点</td><td>ともにそだつ</td></tr>
<tr><td>目　　的</td><td>各種福祉団体の連絡・調整し、社会福祉の啓発や市民の健康増進、地域福祉の推進等を図るとともに、利用者の安全に利用できるよう施設運営に努める。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>１．快適な施設利用への配慮、安全かつ効率的な施設運営</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>１）施設概要
開館日　　火曜日～日曜日　※こどもの日を除く祝日は休館
入浴事業　火・木曜日　10:00～15:00

２）利用実績
<table>
<tr><td></td><td colspan="3">利用者</td><td colspan="2">入浴事業利用者</td></tr>
<tr><td></td><td>開館日数</td><td>利用団体数</td><td>利用者数</td><td>日数</td><td>計</td></tr>
<tr><td>30年度</td><td>301日</td><td>2,653団体</td><td>43,185人</td><td></td><td>3,464人</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>299日</td><td>3,042団体</td><td>48,592人</td><td>101日</td><td>3,584人</td></tr>
</table>
３）施設管理に関わる保守委託業務
①館内清掃　②空調設備　③自動扉　④階段昇降機
⑤ヘルストロン　⑥消防用設備　⑦夜間警備</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価方向性等</td><td>・施設の老朽化とともに機器設備も経年劣化がみられ、利便性や安全性の向上に努め適宜、日野市高齢福祉課への報告・協議を行った。
・修繕工事（集会室3：電気配線・2F女子トイレ：排水・1F浴室脱衣所：洗面排水・ボランティアセンター室：空調設備）を行った。</td></tr>
</table>

高齢者就業創出支援事業

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td>しごとサポートひの</td></tr>
<tr><td>事業形態</td><td>補助事業</td></tr>
<tr><td>財源内訳</td><td>補助金、繰入金、利息</td></tr>
<tr><td>担当係</td><td>しごとサポートひの</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画における視点</td><td>ともにそだつ</td></tr>
<tr><td>目　　的</td><td>高年齢者の就労機会の創出、社会参加の機会を促進する。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>１．利用者の拡大・広報周知</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>市広報、社協だより、インターネット、チラシ作成・配布等を通して事業案内を幅広くPRして利用者の拡大を図った。
<table>
<tr><td></td><td>新規</td><td>再来</td><td>閲覧・相談</td><td>紹介</td><td>就職</td></tr>
<tr><td>30年度</td><td>４２０人</td><td>７５７人</td><td>１２４人</td><td>１７８件</td><td>６７人</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>４１９人</td><td>５８２人</td><td>２０９人</td><td>１５７件</td><td>６３人</td></tr>
</table>
＜就職先職種＞
事務3人、受付事務4人、調理7人、管理員6人、警備員5人、
清掃（責任者）１人、清掃10人、運転手5人、箱詰10人、技術2人、看護師1、介護5人、生活支援1、造園2、その他の労務5人
＜就職者年齢別内訳＞
<table>
<tr><td></td><td>50歳～64歳</td><td>65歳～69歳</td><td>70歳～74歳</td><td>75歳以上</td></tr>
<tr><td>30年度</td><td>２０人</td><td>２６人</td><td>１６人</td><td>５人</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>２８人</td><td>２８人</td><td>３人</td><td>４人</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>２．求人事業所への積極的な開拓</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>自所受求人件数1,184件、自所受求人延人数3,261人</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>３．高年齢者就労支援セミナー</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>＜高年齢者の就業支援・スキルアップ＞
今年度は新規求職者、就職者アップ、周知を目的に「面接会」２回、「セミナー」２回実施、しごとシニアＥＸＰＯ参加により新規求職登録者を増やした。
【セミナー】（会場）日野市生活保健センター（共催）日野市（公財）東京しごと財団
<table>
<tr><td>開催日</td><td>参加者</td><td>テーマ（講師）</td></tr>
<tr><td>9/27</td><td>34人</td><td>「人生100年時代の働き方」（須田万里子　氏）</td></tr>
<tr><td>2/14</td><td>30人</td><td>「定年退職後のライフプランと働き方を考えよう」（梅津　輝　氏）</td></tr>
</table>
【面接会】
・開催日12/6（会場）立川商工会議所　（参加者）１６人
立川商工会議所無料職業紹介所、しごとサポートひの合同による年末合同就職面接会
・開催日3/12（会場）立川グランドホテル　（参加者）４３人
しごとサポートひの、立川商工会議所無料職業紹介所、いきいきワーク府中、わくわくサポート三鷹、はつらつワーク稲城の多摩地域５アクティブ合同による就職面接会を開催した。
【しごとシニアＥＸＰＯ】開催日10/18（会場）パレスホテル立川
東京都主催のイベントに相談員として参加とアクティブの活動ＰＲをおこなった。</td></tr>
<tr><td>事業効果・評価方向性等</td><td>【セミナー】受講者からは「具体的な人生設計」「自己分析」「老後への備え」等非常に参考になった。と全体的に良い評価をいただいた。
【面接会】新規求職登録者、就職者を増やし高齢者就業機会の拡大が図れた。</td></tr>
</table>

収益事業拠点区分

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td>自動販売機設置管理事業</td></tr>
<tr><td>財源内訳</td><td>手数料、利用料、利息</td></tr>
<tr><td>担当係</td><td>総務係</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画における視点</td><td>ともにそだつ</td></tr>
<tr><td>目　　的</td><td>公共施設に自動販売機や中央福祉センター内に印刷機を設置し、施設の利便性の向上を図るとともに、社会福祉事業における財源確保に努める。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>１．自主財源の確保</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>自動販売機の設置
１）実績
<table>
<tr><td></td><td>台数</td><td>ロケマージン</td></tr>
<tr><td>30 年度</td><td>29台</td><td>6,911,953円</td></tr>
<tr><td>29 年度</td><td>28台</td><td>6,668,829円</td></tr>
</table>
２）設置場所　16ヶ所（台数）
・日野市役所１階　(5)　・南平体育館　(3)
・クリーンセンター　(2)　・福祉支援センター（1）
・中央福祉センター　(2)　・湯沢福祉センター（1）
・生活•保健センター（1）　・ひの煉瓦ホール　(4)
・中央公民館　(1)　・勤労・青年会館　(1)
・教育センター　(1)　・ふるさと歴史館　(2)
・百草コミュニティセンター(1)
・PlanT（多摩平の森産業連携センター）（1）
・クリーンセンター工事現場（2）
・日野市役所工事現場事務所（1）＊新設

印刷機等の貸出
１）実績
<table>
<tr><td></td><td>件数</td><td>利用料</td></tr>
<tr><td>30 年度</td><td>88件</td><td>137,281円</td></tr>
<tr><td>29 年度</td><td>88件</td><td>149,988円</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業効果・評価方向性等</td><td>・設置する自動販売機の管理とともに、マージン収入を地域福祉活動へ活用する。
・5 月から日野市役所耐震工事事務所前に新たに１台設置（赤い羽根募金型）した。
・自主財源の確保のため、引き続き社会貢献型自動販売機の新たな設置箇所の検討を行っていく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td>日野市役所内売店の運営</td></tr>
<tr><td>事業形態</td><td>収益事業</td></tr>
<tr><td>財源内訳</td><td>売上金、利息</td></tr>
<tr><td>担当係</td><td>総務係・日野市役所内売店</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画における視点</td><td>ともにそだつ</td></tr>
<tr><td>目　　的</td><td>日野市役所内売店を運営し、市役所の利便性の向上を図るとともに、社会福祉事業における財源確保に努める。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>１．財源の確保</td></tr>
<tr><td>具体的内容</td><td>１）運営概要
営業日時　月～金曜日（9:30～16:30）　※祝日・年末年始を除く
従 業 員　管理責任者１人、補助職員２人
<table>
<tr><td></td><td>売上</td><td>商品残高</td></tr>
<tr><td>30 年度</td><td>22,151,246円</td><td>1,749,033円</td></tr>
<tr><td>29 年度</td><td>22,818,872円</td><td>2,088,292円</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事業効果・評価方向性等</td><td>•市役所の耐震工事等や近隣にコンビニエンスストアができたこと等の来店客が減少、と同時に売上が減少、経営は厳しい現状が続いている。市役所への来所者の利便性向上、収益事業として売店事業の経営等を考慮し、今後の経営方法についても市役所等と検討を続けていく必要がある。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>２．障害者の社会参加の促進</td></tr>
<tr><td>実績報告</td><td>品出し・販売業務補助委託：社会福祉法人青い鳥福祉会
訓練生（障害者）：３人</td></tr>
</table>

共同募金運動

赤い羽根共同募金運動

<table>
<tr><td>事　業　名</td><td>東京都共同募金会 日野地区協力会（募金業務）</td></tr>
<tr><td>事業形態</td><td>赤い羽根共同募金運動（共同募金運動）</td></tr>
<tr><td>財源内訳</td><td>地区協力会事務費</td></tr>
<tr><td>担当係</td><td>総務係</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画における視点</td><td>ともにそだつ</td></tr>
<tr><td>目　　的</td><td>東京都共同募金会日野地区協力会事務局として、日野地区における赤い羽根共同募金運動の普及・啓発に努め、社会福祉施設が行う事業の助成金として活用し、東京都ならびに日野市の社会福祉事業の推進を図る。</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>１．審査・推せん（推せん・意見書の交付）</td></tr>
<tr><td>具体的内容</td><td>
東京都共同募金会日野地区協力会として、日野地区における赤い羽根共同募金運動（10/1～12/28）を展開し、市民へ協力を呼びかけた。
１）募金実績
<table>
<tr><th></th><th>募金額</th><th>内訳</th></tr>
<tr><td>30年度</td><td>2,451,684円</td><td>地区募金 1,027,556円
街頭募金 663,696円
自動販売機 760,432円</td></tr>
<tr><td>29年度</td><td>2,445,932円</td><td>地区募金 1,073,756円
街頭募金 714,572円
自動販売機 657,604円</td></tr>
</table>
２）街頭募金活動
①活動回数　15回
②協力団体　11団体　（順不同）
・日野市赤十字奉仕団　・ボーイスカウト日野第4団
・日野市少年軟式野球連盟　・プリメイロスＦＣ
・日野第一中学校ボランティア部　・大坂上中学校演劇部
・都立日野台高等学校生徒会　・夢ふうせん
・すずかけの家　・ふらっとすずかけ　・あおいとり日野
３）赤い羽根共同募金へ寄附する自動販売機設置
①協賛企業　4社
・東京キリンビバレッジサービス㈱・㈱伊藤園
・サントリービバレッジサービス㈱・ＦＶイーストジャパン㈱
②日野市社会福祉協議会による設置　10ヶ所
・多摩平の森産業連携センターPlanT・日野市役所・福祉支援センター
・クリーンセンター・南平体育館・中央福祉センター・中央公民館
・百草台コミュニティセンター・クリーンセンター工事現場
・日野市役所工事現場
③他団体による設置協力　3ヶ所
・日野市市民の森ふれあいホール・パチンコＲＡＭＯ・日野市立病院
</td></tr>
</table>

	4）関係部署窓口において募金受付 日野事務所、高幡事務所、日野市役所売店
事業効果・評価 方向性等	・日野地区においては、10～11 月にかけ土曜・日曜を中心に協力団体による街頭ボランティア活動を活発に行っている。 ・昨年度同様、日野自動車秋まつりや産業まつり会場での募金活動を実施することができた。運動期間中の他のイベント会場での実施の検討を進める。 ・街頭募金での活動実績とともに、社会貢献型自動販売機による募金実績額の数年増加傾向にあり、社会貢献型自動販売機の理解や設置の普及が期待される。 ・赤い羽根共同募金運動へ寄附する自動販売機を、日野市役所工事現場事務所で新たに1台設置した。

事　業　名	**東京都共同募金会　日野地区配分推せん委員会（配分業務）**
事業形態	赤い羽根共同募金運動（共同募金運動）
財源内訳	地区配分推せん委員会事務費
担当係	総務係
地域福祉活動計画 における視点	ともにそだつ
目　　的	東京都共同募金会日野地区配分推せん委員会事務局として、日野市内における社会福祉施設からの『助成金の受付ならび申請内容の審査・検討』を行い、東京都共同募金会へ推せん・意見書の交付を行う。
事業内容	**1．審査・推せん（推せん・意見書の交付）**
具体的内容	1）日野地区配分推せん委員会　委員構成 委員任期が5月31日で終わることから委員の改選を行った。 新委員任期　平成30年6月1日から平成33年5月31日まで　3年間 ・日野市社会福祉協議会　理事 ・日野市赤十字奉仕団 ・日野社会福祉士会 ・市内自治会（市民） ・日野市民生児童委員協議会 ・日野市老人クラブ連合会 ・日野市ボランティア・センター ・日野市内社会福祉法人ネットワーク ・日野市障害福祉課 ・明星大学きらきらボランティアセンター ・地域包括支援センター 2）委員会の開催　　3回（8/24,12/10,1/24）
事業内容	**2．施設見学会の実施**
実績報告	委員による配分団体（29年度受配）施設見学会を実施。 開催日　10/16（火） 見学施設　工芸技能研究所／栄光多摩平中央保育園／光の家就労ホーム

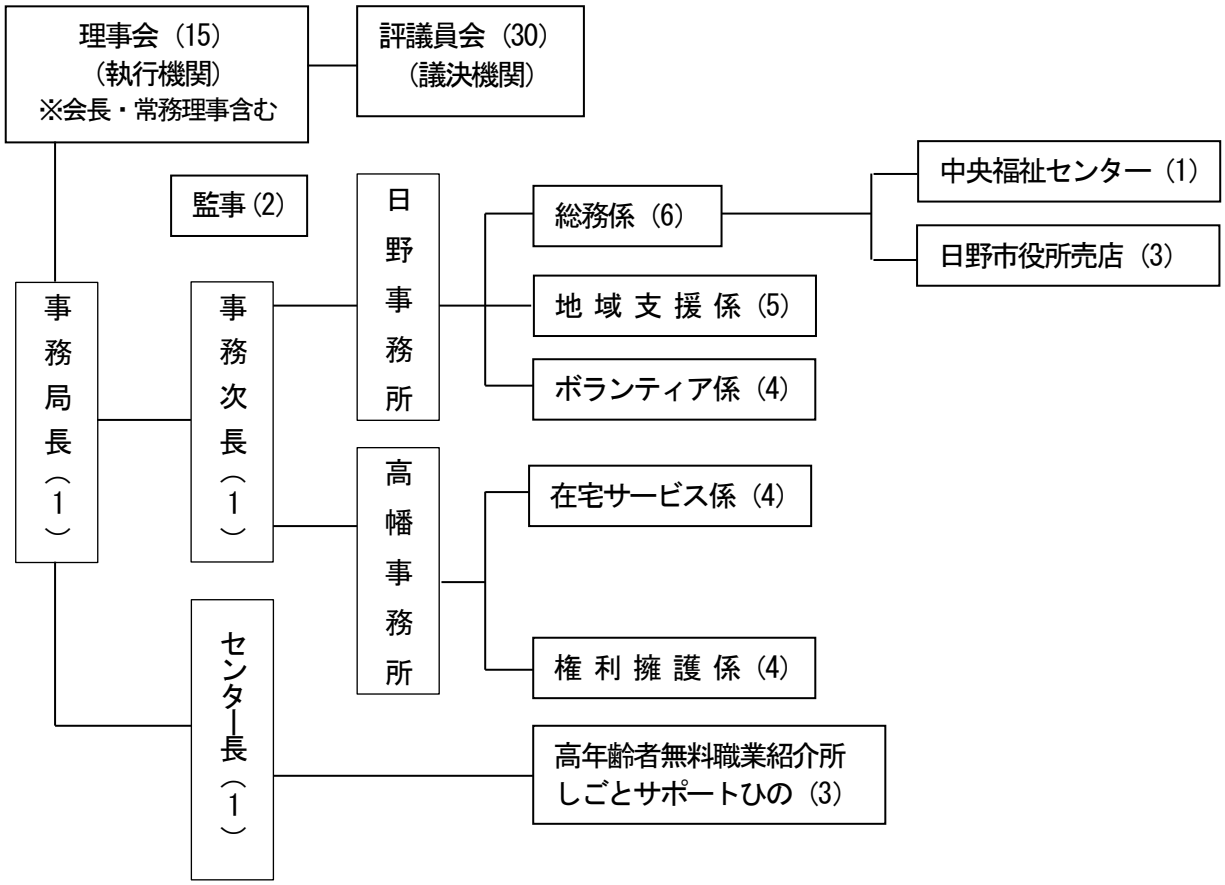
事業効果・評価 方向性等	・施設を見学することにより、配分金がどのように活用されているかその効果を確認し、また配分施設の活動や事業内容を知ることができた。 ・委員同士の関係が深まり、助成金の審議・審査時での意見交換等、今後の活発な委員会活動が期待できる。

歳末たすけあい運動

事　業　名	**歳末たすけあい運動の実施**
事業形態	歳末たすけあい運動（共同募金運動）
財源内訳	歳末たすけあい配分金、事務費
担当係	総務係
地域福祉活動計画 における視点	ともにそだつ
目　　的	日野地区における歳末たすけあい運動の実施主体（主催：東京都共同募金会・主唱：東京都社会福祉協議会）として、運動の普及・啓発に努め、日野市の地域福祉事業の推進を図る。
事業内容	**1．歳末たすけあい運動の普及・拡大**
実績報告	共同募金運動の一つとして、東京都共同募金会の主催のもと、日野地区における『歳末たすけあい運動』を展開した。 1）運動期間　12/1～12/28 2）募金実績

	募金額	内訳	
30年度	3,690,605円	戸別募金 街頭募金 バザー募金	2,469,766円 13,459円 1,207,380円
29年度	5,171,023円	戸別募金 街頭募金 バザー募金	3,777,075円 38,012円 1,355,936円

3）街頭募金活動
■活動回数　1回
■協力団体　1団体
・南平地区社会福祉協議会（ぷらっと南平）

事業効果・評価 方向性等	・関連イベントであるバザーの売上金が実績にも影響しているが、自治会等からの戸別募金の実績が大幅に落ち込んだ。引き続き、地域への運動に対する理解を深めていくことが課題となる。

日野市社会福祉協議会組織図